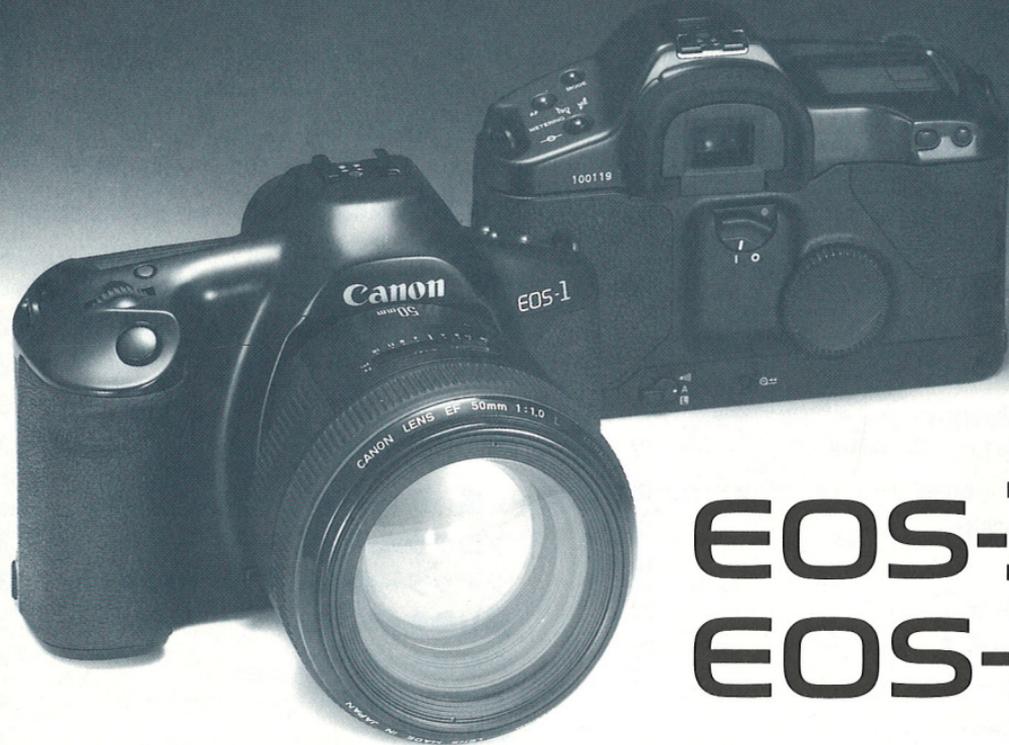


Canon



EOS-1
EOS-1 HS

使用説明書  日本語版

キヤノン製品のお買いあげありがとうございます

まず最初に取扱説明書をお読みください。

プロ、ハイアマの方のためのカメラキヤノンEOS-1。EOS-1は「自動化とマニュアルの合体」ということを、開発の基本として考えられた新しい概念のカメラです。従って、自動化を採用しているにもかかわらず、露出をカメラマンが意のままにコントロールすることができます。つまり写真表現に大きく影響を与える、シャッター速度、絞り値などをご自分の意志で微妙に調節することができます。

さらにカメラのカスタム機能を利用すれば、ご自分の撮影意図やスタイルに合わせた、文字通りのカスタムカメラとすることができます。

EOS-1は多機能カメラですので、その内部構造は大変複雑ですが、操作性は驚くほど簡単です。但し、フルにその機能、性能を引き出すためには、必然的に新たに覚えていただく部分もふえていますので、まず最初に取扱説明書をお読みいただき、十分にご理解のうえカメラをお使いくださるよう、お願い致します。

表紙と裏表紙の各部名称を図のように開いてご覧ください。



■キヤノンEOS-1_{HS}をお買い求めの方は、キヤノンパワードライブブースターEIの使用説明書も併せてお読みください。

各部名称

レンズ取り付けマウント

ミラー

シャッターボタン

セルフタイマー作動表示ランプ

グリップ(電池室)

被写界深度確認スイッチ

グリップ着脱ねじ

電気接点

三脚ねじ穴

巻き上げカブラー(カバー)

レンズ取り付け指標

フォーカシングスクリーン

レンズロックピン

ストラップ通し

裏蓋ロック解除ボタン

裏蓋開放レバー

シンクロ接点(カバー)

レンズ取り外しボタン

巻き上げ連動ピン

ガイドホール



1. カメラの準備

各部名称	3,86
電池の入れ方	6
電池のチェック	8
レンズの取り付け	9
視度調節	10
フィルムの入れ方	12
フィルム感度のセット	15

2. 主要機能について

メインスイッチ	17
シャッターボタン	17
表示パネル	18
(表示パネルの照明)	18
ファインダー	19
メイン電子ダイヤル	20
サブ電子ダイヤル	20
モード切り換えボタン	21
セット機能の解除	21

3. 撮影のための準備操作

AFモードのセット方法	22
ワンショットAF、AIサーボAF	23
動体予測機能について	24
フィルム巻き上げモードのセット方法	24
1枚撮り、連続撮影、フィルム	
給送自動変速機能について	25
測光モードのセット方法	26
評価測光 部分測光 スポット測光	27,28
撮影モードのセット方法	29
ピントの合わせ方	30
AFの苦手な被写体	32

4. 撮影

プログラムAE(P)	34
シャッター優先AE(TV)	36
絞り優先AE(AV)	38
深度優先AE(dEP)	40
AEロック撮影	43
露出補正	45
サブ電子ダイヤルによる補正	45
露出補正ボタンによる補正	46

マニュアル撮影	48
任意セット撮影	48
内蔵メーターを参考にした撮影	50
AEB撮影(オートブラケティング)	51
多重露出	53
バルブ撮影 (bulb/長時間露出)	55
セルフタイマー撮影	56
フラッシュ撮影	58
その他のキャノンスピードライト	59
汎用ストロボ	59
シンクロ接点	60
赤外写真撮影	60
フィルムの巻き戻し	62
撮影途中のフィルム巻き戻し	63
ファインダーでのフィルム残数確認	63

5. カスタム機能

カスタム機能の選択とセット、カスタム機能の解除	65
カスタム機能内容	66

6. 主要アクセサリ

キャノンスピードライト430EZ	69
キャノンパワードライブブースターE1	70
キャノンコマンドバックE1	71
交換用フォーカシングスクリーン(専用)	72
視度補正レンズ	74
ストラップの扱い	75
表示パネル一覧	76
ファインダー情報	77
電池寿命(フィルム給送本数)	78
インテリジェントプログラムAE特性図	78
シャッター速度と絞り値表示	79
手入れと保管	80
その他の注意	82
アフターサービス	83
主要性能	84, 85, 87

カメラの準備



- 1 グリップが電池室になっていますので、グリップを外します。

ストラップについているアイピースカバーを利用して、グリップの着脱ねじを緩めた後、引っ張って外します。



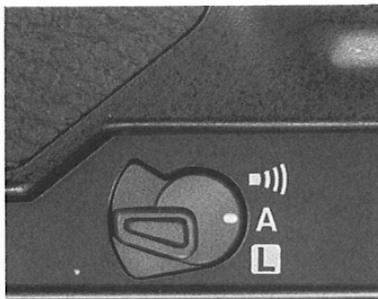
- 2** 電池を入れます。
電池を入れるときは、電池接点の上下の向きを確認してください。

長期間のご旅行や出張撮影時は、予備の新品電池をご用意ください。特に海外では地域によって、電池の入手が困難なことがあります。



- 3** 電池は写真のように入れた後、矢印方向に押し付けてください。
- 4** 最後にグリップを取り付け、着脱ねじを回して完全に止めます。

電池のチェック



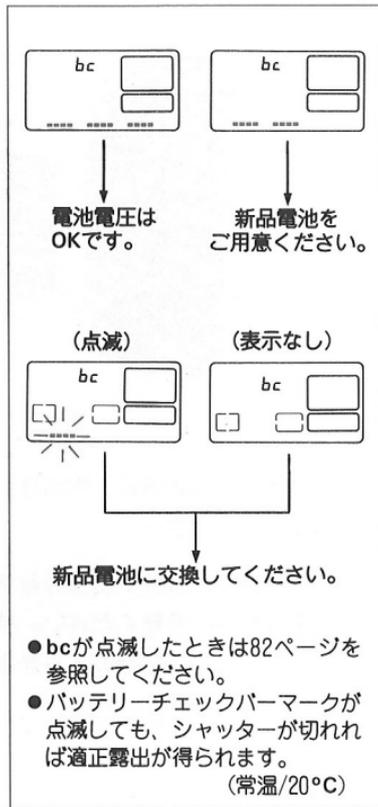
電池を交換したときおよび使用前には、必ず電池電圧をチェックしてください。

1 メインスイッチをA位置にセットします(□位置ではチェックできません)。



2 カメラ側面のカバーを開けて、バッテリーチェックボタンを押します。

3 表示パネルのバッテリーチェックパーマークで確認します。

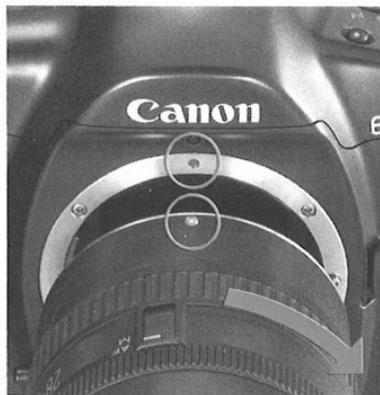


レンズの取り付け



1 カメラのボディキャップを矢印方向に回して外します。

- ボディキャップを付けるときは、カメラとキャップの○印を合わせて時計方向に回します。



2 レンズを付けるときはレンズとカメラの赤指標を合わせ、レンズを矢印方向に回します。カチッという取り付け音がるまで回してください。

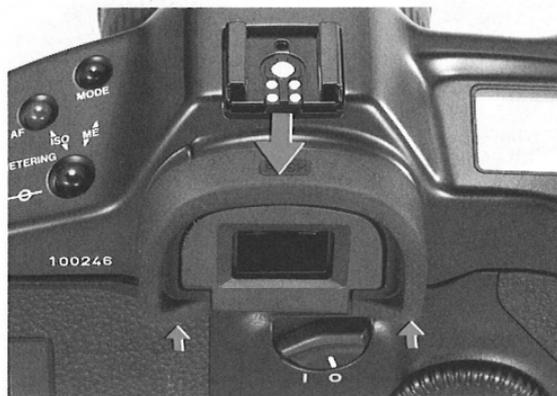


- レンズを外すときはレンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。



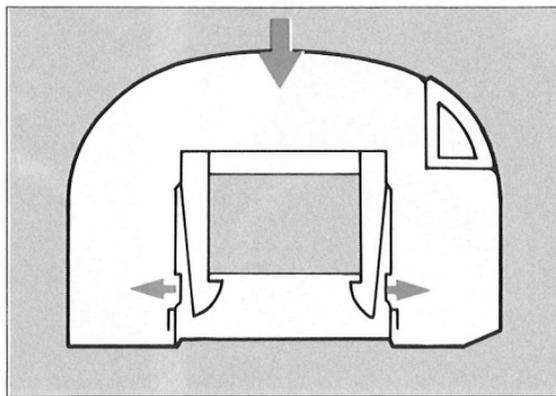
レンズを外したときは、電気接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

視度調節



被写体の表情、動きなど、的確にシャッターチャンスをつかめるためには、ファインダー像は鮮明でなければなりません。

視度調節をすることによって、鮮明な画像を見ることができます。視度調節をすればメガネ使用の方でも、裸眼で撮影することができます。

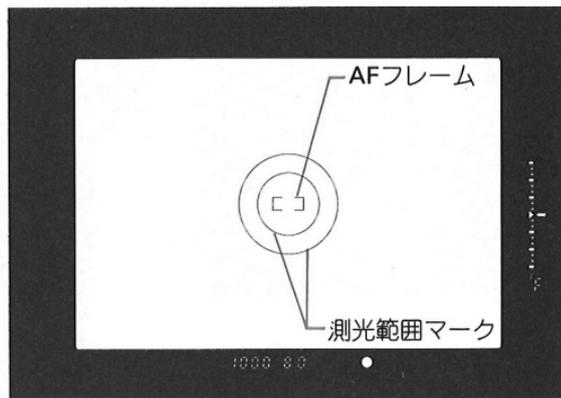


- 1 アイカップを外します。
人差し指でアイカップの中央部(PUSH位置)を強く押しながら、両手の親指で押し上げるようにすると外れます。(アイカップ構造図参照)

アイカップを外すときは、カメラを落したり倒さないようご注意ください。

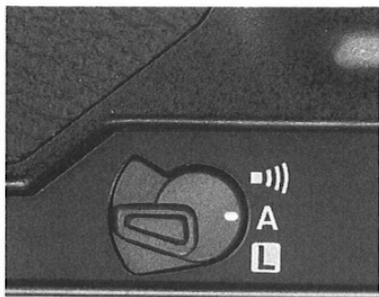


2 視度を調節します。
 ファインダー内のAFフレームまたは測光範囲マークが最も鮮明に見えるよう視度調節ノブを回します。



- 視度調節範囲は、 $-3 \sim +1$ dpt(ジオプター)です。
- カメラの視度調節機構の範囲内で、視度合わせができない方は、別売の視度補正レンズとアイカップをお買い求めください。(P.74参照)
 その際は実際にカメラに取り付けて確認の後、お求めください。

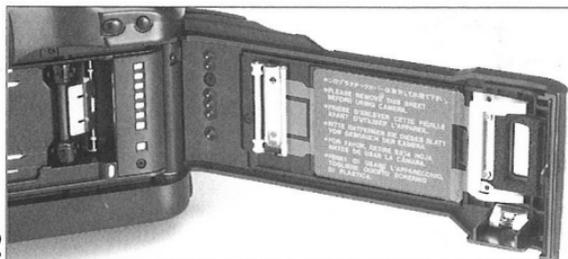
フィルムの入れ方



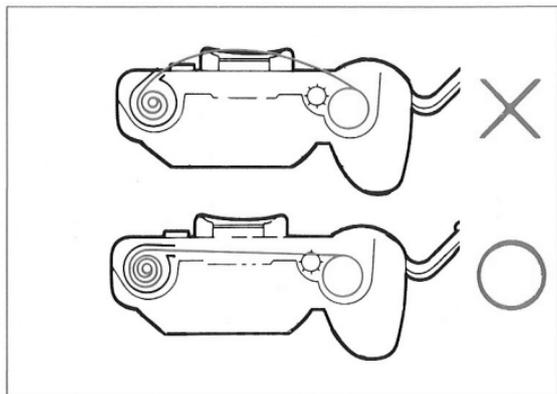
1 最初にメインスイッチをAまたは  位置にセットします。

2 裏蓋ロック解除ボタンを指で押し付け、その指でそのまま裏蓋開放レバーを押し下げると、裏蓋が開きます。裏蓋を閉じるときは、蓋を押し付けるだけです。

3 写真のようにフィルムは先端を斜めにして入れます。

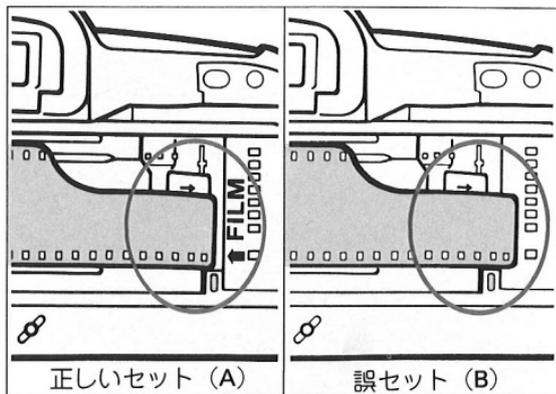


初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れる前に、裏蓋の内側についているプラスチックカバーを外して捨ててください。



4 カメラを倒さないように、左手でカメラとパトローネを押さえながら、右手でフィルムを引き出します。次にフィルムがたるまないようにして、フィルムの先端をオレンジマークに合わせます。

シャッター幕は非常に高い精度を必要とするため、絶対に手で触れないでください。また、フィルムを出し入れする際にも、シャッター幕に触れないよう、ご注意ください。

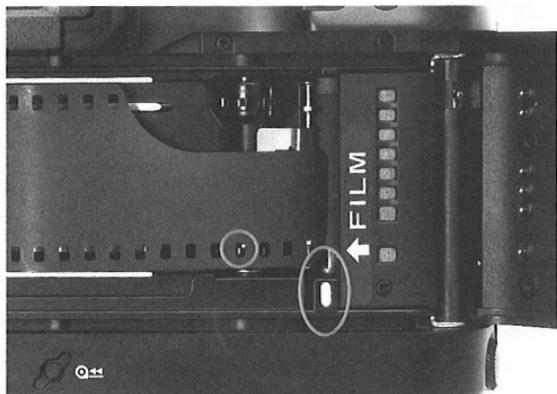


フィルム装てん時のご注意

フィルムを入れるときはフィルム先端をオレンジマークに合わせてください(図A)。

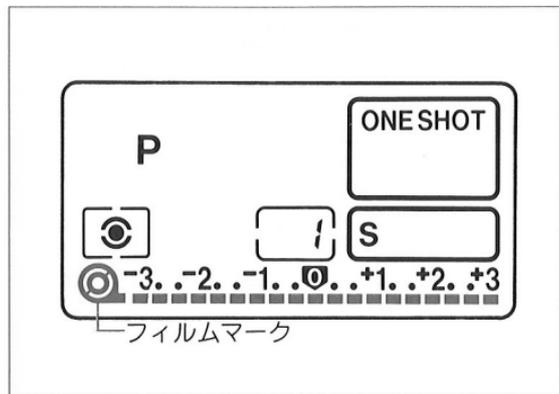
フィルムが不用意に(図B)のように、オレンジマークを越えたところにセットされると、フィルムが損傷したりカメラ故障の原因となることがあります。

十分ご注意ください。



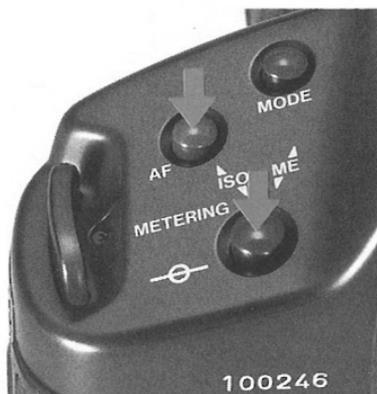
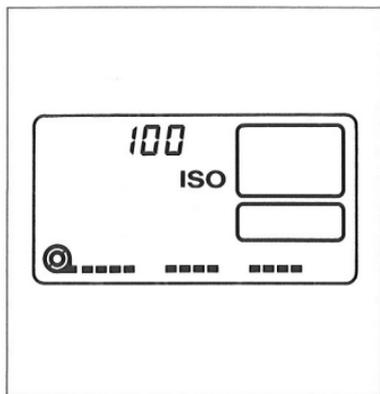
- 5** フィルムの先端がオレンジマークに合っていること、フィルムの穴がカメラ側の歯車に合っていることを確認し、裏蓋を閉じます。

湿度の高い場所では、フィルムはカメラに入れる直前にパッケージから取り出してください。高湿度下に放置したフィルムを入れると、フィルム切れなどを起こすことがあります。



- 6** フィルムを入れるとカメラが自動的にフィルムを巻き上げて、1枚目をセットします。このとき表示パネルに“1”とフィルムマークがでます。
- フィルムが正しくセットされないときは、フィルムマークが点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。

フィルム感度のセット



自動セット

DXコード付きフィルムを使用すれば、フィルム感度は自動的にセットされます。自動セットされたフィルム感度は、フィルムの1枚目がセットされるまでの間、表示パネル上で確認できます。

- フィルムの感度セット範囲は、ISO 6～6400ですが、自動感度セット範囲はISO 25～5000です。
- DXコードのないフィルムを入れると、ISO感度数値が点滅警告をします。
- フィルム感度を確認するときは、AF、METERINGの両ボタンを押してください。

手動セット

DXマークのないフィルムやDXマーク付きでも、実効感度をセットするときは、次のようにして手動で感度セットをしてください。

- 1 測光モード切り換えボタン(METERING)とAFモード切り換えボタン(AF)を押して、表示パネルにISO表示をします。
- 2 その状態でメイン電子ダイヤルを回してフィルム感度数値をセットします。

主要機能について

このカメラのアウトラインをご理解いただくために、主な部分の機能をご理解ください。

1. メインスイッチ



L…カメラを使用しないときのセット位置、携帯、保管時の不用意なシャッターボタン押しによる、無駄写しや通電による電池消費を防ぎます。

A…撮影時のセット位置

📶…A位置と同じですが、ピントが合うと合焦音がします。

2. シャッターボタン



シャッターボタンは2段スイッチになっており、ピント合わせ、測光および撮影を行います。軽く押すとスイッチONとなり、ピント合わせと測光が行われます。測光結果はファインダーに表示されます。

- シャッターボタンを押す、準備位置および作動ストロークの調整をご希望の方は、最寄りのキヤノンサービスステーションにご相談ください。調整範囲は次のようになります。

準備位置(標準調整値+1mm~-0.5mm)、測光時のストローク調整(標準値:面位置より0.6mm/調整値:面位置より0.2mmから1.0mm)

3. 表示パネル

メインスイッチをON状態にすると、表示パネルはカメラのセット状態を示します。つまり、すでにセットされている撮影モード、測光モードなど、すべてを表示します。

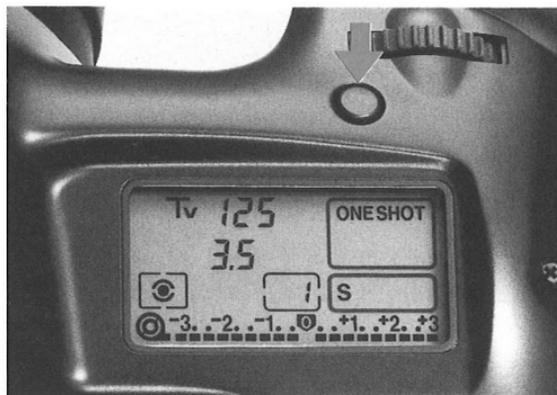
撮影時のシャッター速度、絞り値のセットなどもこのパネルを見ながら行います。

軽くシャッターボタンを押すと、測光値がパネルに表示されます。

表示パネルの照明

表示パネルは照明することができます。

表示パネル照明ボタンを押すと、約6秒間照明されます。6秒以内に消灯させたいときは、再び照明ボタンを押してください。なおシャッターを切ると2秒後に消灯します。

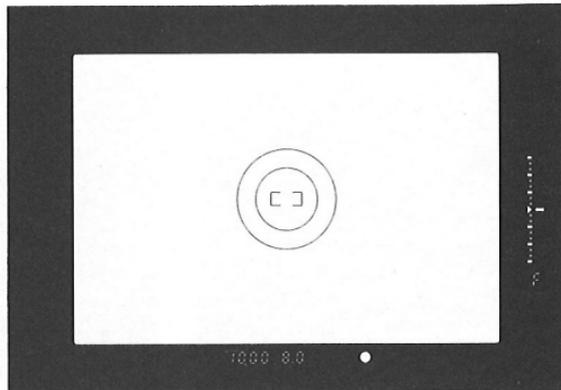


4. ファインダー

表示パネルがカメラのセット状態を表示するのに対して、ファインダーは露出に関する情報を表示しません。ファインダー内下部にはシャッター速度、絞り値、右視野外には露出レベルを表示します。

なお合焦マークは下部に表示されます。

露出表示は1段目のシャッターボタン押しに連動します。シャッター速度セットなど、カメラ操作をしたときは、操作終了時から6秒後に消灯します。シャッターを切ると直後に、2秒間の確認表示が行われます。(タイマー表示)



CF カメラのシャッター速度、絞り値は1/3段表示となっていますが、カスタム機能を利用すれば、1段ごとの表示となります。

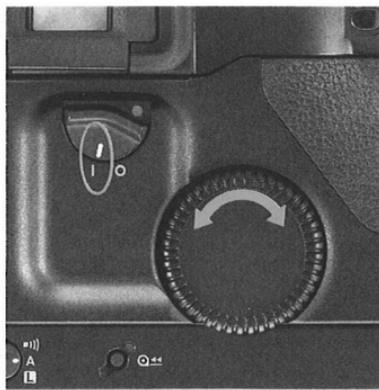
(P.65~68カスタム機能参照)

●ファインダー視野率は約100%です。

CF マークはカスタム機能関連を表したものです。



メイン電子ダイヤルは他のスイッチと併用して、表示パネルに撮影、測光、巻き上げなどの各モードセットと、単独操作でシャッター速度、絞り値などのセットを行います。言わば情報コントロールダイヤルです。



サブ電子ダイヤルはマニュアル撮影時の、絞りセットとAE撮影時の露出コントロールを行います。露出を自動的に決めるのがAE撮影ですが、EOS-1はAE撮影時においても、ご自分の意志を盛り込むことができます。つまり、サブ電子ダイヤルを回せば露出の微調整ができます。



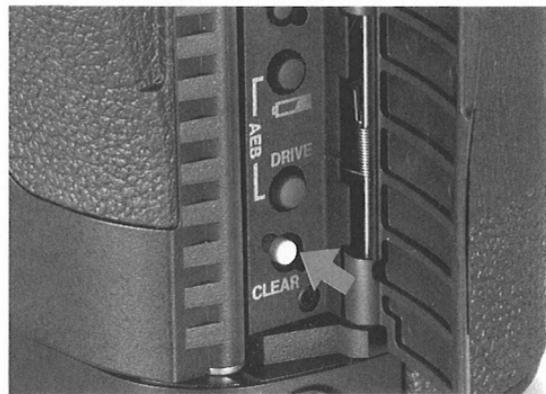
- サブ電子ダイヤルはサブスイッチをON状態(1)にして使用します。
- EOS-1はファインダーを覗いたままのダイヤル操作で、シャッター速度と絞り値のセットができます。

7. モード切り換えボタン



使用頻度の高い3つのボタンを、カメラ上部に配置しています。これらのボタンはメイン電子ダイヤルと併用して、撮影モード(MODE)、オートフォーカスモード(AF)、測光モード(METERING)の選択を行います。

8. セット機能の解除



CF EOS-1は多機能カメラですが、クリアボタンを押すと、カメラがどんな状態にセットされていても、即座にプログラム撮影モードとなります(評価測光、ワンショットAF、1枚撮り)。なおクリアボタンはカスタム機能の一括クリアボタンにもなります。(P.65参照)

撮影のための 準備操作

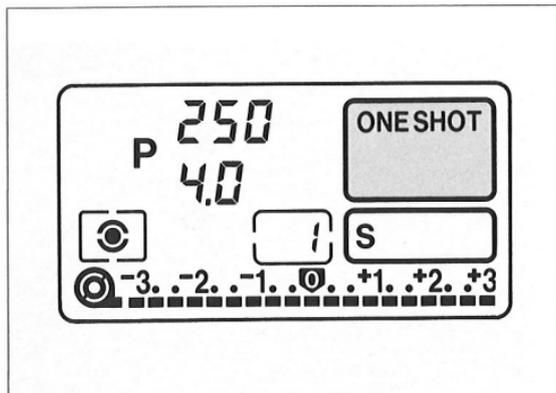
AFモードのセット方法



AFモードには**ONE SHOT**(ワンショット)と、**AI SERVO**(エーアイ・サーボ)の2通りがあります。

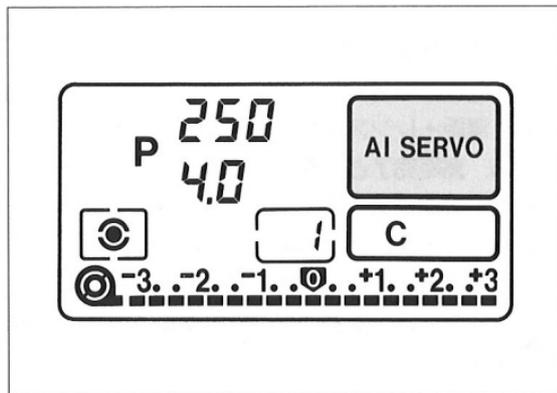
AFモード切り換えボタン(AF)を押しながら、メイン電子ダイヤルを回して、表示パネルに**ONE SHOT**または**AI SERVO**をセットします。

●レンズのフォーカスモードスイッチが**AF**にセットされていないとAF撮影になりません、ご確認下さい。



ONE SHOT(ワンショット)

撮影距離が変わらない被写体を撮るときにセットします。ピントが合うまでシャッターが切れませんので、ピンボケ写真を防ぐことができます。一度ピントを合わせた後、シャッターボタンを半押しし続けると(第1段スイッチ位置)、ピントは固定されたままとなりますので、必要に応じてピント合わせ後に構図を変える「フォーカスロック撮影」ができます。



AI SERVO(エーアイ サーボ)

撮影距離がたえず変わる被写体を撮るときにセットします。

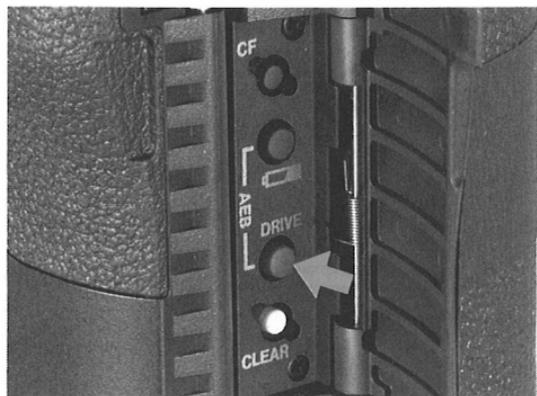
シャッターボタンを半押しし続けると、動いている被写体にピントを合わせ続けます。従ってフォーカスロック撮影はできません。また、[※]動体予測機能により、カメラに向って近付いて来る被写体、あるいは遠ざかる被写体にもピントを合わせることができます。露出はシャッターが切れる直前に決まります。合焦マークは点灯しません。また、合焦音は鳴りません。

※動体予測機能について

ワンショットAFモードにおける一般的なAF撮影は、測距・レンズ駆動・撮影という順序で行われるため、測距完了と実際撮影の間には、わずかですが時間のズレがあります。このズレは、前後方向に動かない一般被写体では問題になりませんが、カメラに向かって急速に近づいてくる移動被写体ではピントのズレとなり、撮影結果がピンボケとなることがあります。

EOS-1の動体予測AIサーボAFは、ハイスピードマイクロコンピュータで被写体の移動を自動検知し、実際の露出作動時の被写体位置を予測してピントを合わせ続ける高度な機能です。

特に、ほぼ等速度でカメラに向かってくる被写体、あるいは遠ざかる被写体に対して最も威力を発揮します。

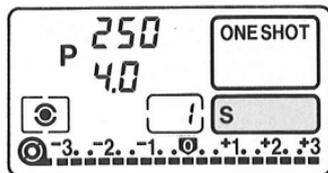


フィルムの自動巻き上げには1枚撮りと連続があります。

1 カメラの側面カバーを開けて、青色のフィルム巻き上げモードセットボタン(DRIVE)を押します。6秒タイマー機能が働きますので、指を離しても構いません。

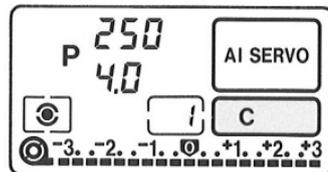
2 メイン電子ダイヤルを回してS(1枚撮り)、またはC(約2.5枚/秒の連続撮影)のいずれかをセットします。

- パワードライブブースターE1を装着したときは、表示がS、C^H、C_Lとなります。Sは1枚撮り、C^Hは秒間約5.5枚、C_Lは秒間約3枚となります。



S(SINGLE) : 1枚撮り

シャッターボタンを押すと撮影が行われ、撮影後にシャッターボタンが第1段スイッチ位置まで戻ると次の測光となります。つまり1枚撮りにおいても、その都度シャッターボタンから指を離すことなく撮影できます。



C(CONTINUOUS) : 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続撮影となります。

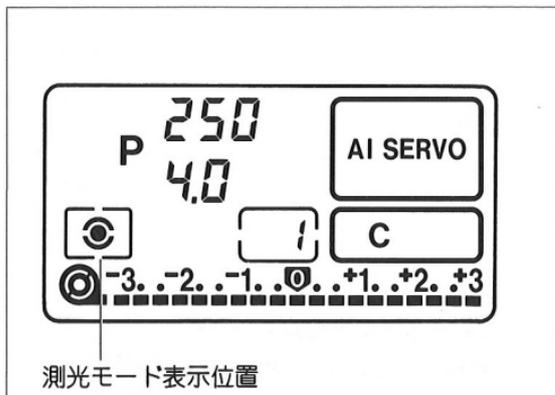
☺: セルフタイマー位置です(P.56参照)

フィルム給送自動変速機能について

EOS-1は高速でフィルムを巻き上げる設計となっていますが、低温下などで電池電圧が急速に低下したり、フィルムの負荷が重くなった場合には、自動的に低速給送モードに自動切り変えとなり、フィルム給送能力の維持を優先する機能が組み込まれています。この状態になると、表示パネルのフィルム巻き上げモード表示が点滅します。

点滅の解除は、フィルム巻き上げモードセットボタン押し、フィルム交換、電池交換のいずれかにより行われますが、バッテリーチェックを行い、その指示に従って下さい。

測光モードのセット方法



撮影目的や撮影意図に合わせて、カメラの測光方式をセットすることができます。測光方式は評価測光、部分測光、スポット測光の3方式の中から選択できます。セットするときは次のようにしてください。



測光モード切り換えボタン(METERING)を押しながら、メイン電子ダイヤルを回して表示パネルにセットします。

評価測光

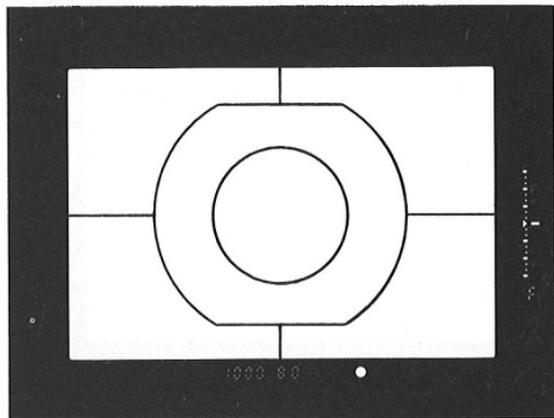


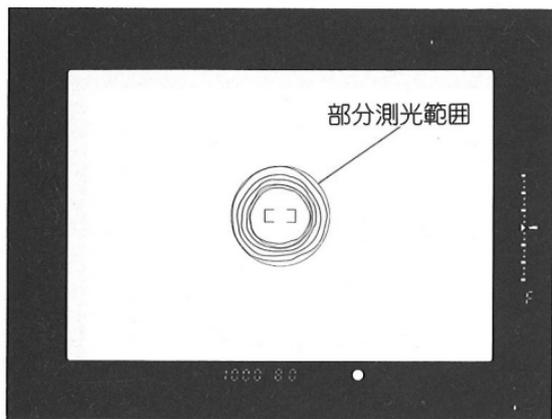
画面全体を6分割して露出を測る方法です。これまで露出の決定が難しいとされてきた、逆光撮影も含む一般撮影に適し、撮影画面内の主被写体の大きさ、位置、明るさ、背景、逆光、順光等の要素をカメラが判断して、主被写体を常に適正露出にします。

CF

カスタム機能を用いれば、中央部重点平均測光となります。(カスタム機能P.65~68参照)

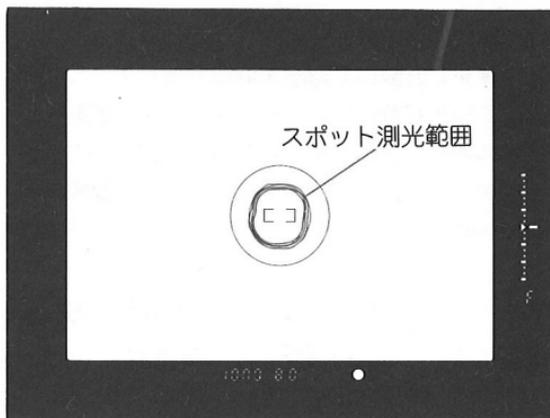
主被写体が、極端な逆光下または舞台上強いスポットライトを浴びているようなとき、つまり主被写体と背景とで極端に明暗差があるときは、次ページの部分またはスポット測光をしてください。





部分測光

画面中央部、約 8 mm の円内 (画面の約 5.8%) を測光します。



スポット測光

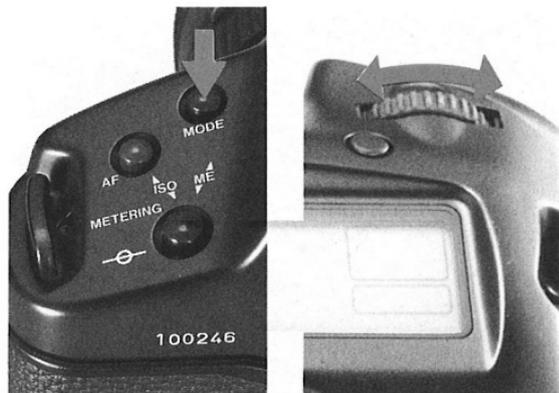
画面中央部約 5 mm の円内 (画面の約 2.3%) を測光する方法です。

円内以外はほとんど測光しない、ファインスポット測光となっています。測光範囲が非常に狭いため、画面の一定部分や主被写体を部分的に捉えたいときなどに適します。

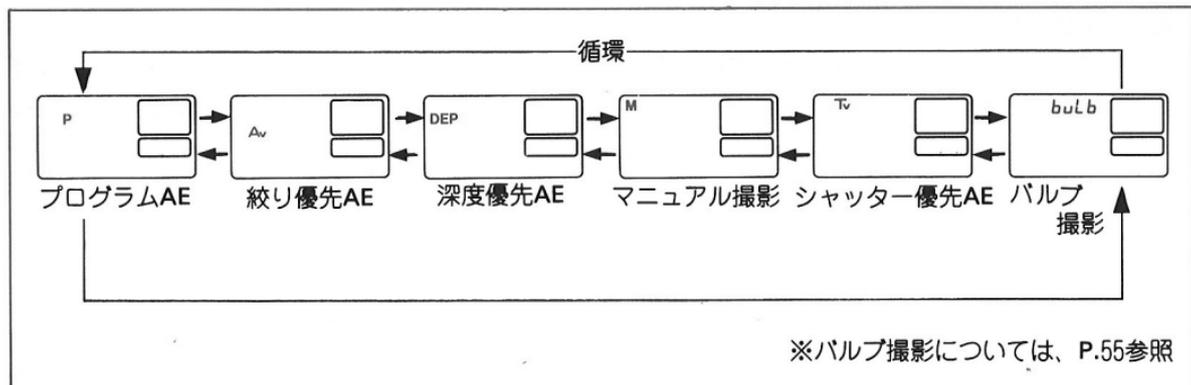
撮影モードのセット方法

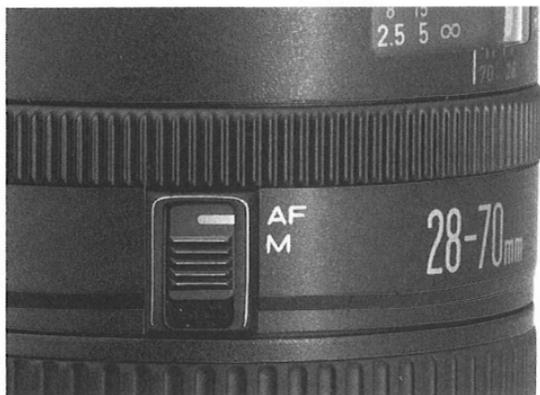
撮影意図に合わせて撮影モードを選ぶことができます。
表示は次のようになり、循環します。

撮影モードをセットするときは、撮影モード切り換えボタン(MODE)を押しながら、メイン電子ダイヤルを回します。



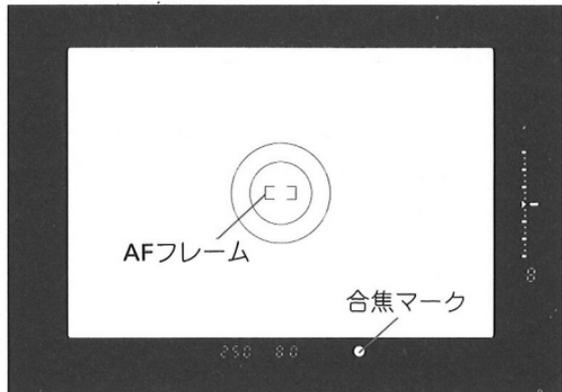
撮影モードには4種のAEとマニュアルがあります。





自動ピント合わせ

1 レンズのフォーカスモードスイッチがAFになっていることを確認します。



2 ファインダーを覗き、AFフレームを被写体に合わせて、シャッターボタンを軽く押すと(第1段スイッチ)、ピント合わせが行われます。ピントが合ったときはファインダー内に合焦マークが点灯します。ピント合わせができないときは、合焦マークが点滅します。(AFの苦手な被写体の項参照)

- AFモードがAI SERVOにセットされているときは、合焦マークは点灯しません、また合焦音も鳴りません。

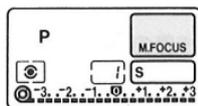
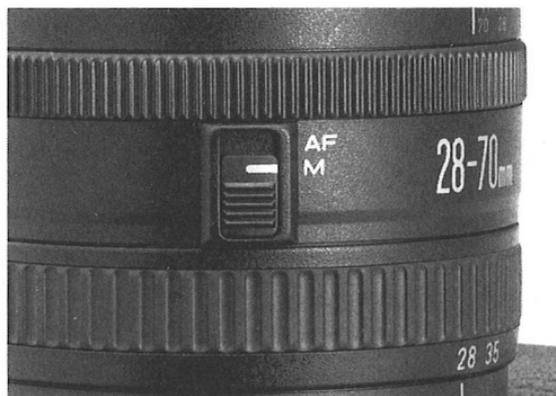
USMレンズの場合はAFピント合わせ後、必要に応じて即座に手動フォーカスができますが、他のレンズは次のようにして手動ピント合わせをしてください。

手動ピント合わせ

1 レンズのフォーカスモードスイッチをM(マニュアル：手動)にセットします。
このとき表示パネルのAFモード表示も、自動的にM.FOCUSに切り換わります。

2 レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。マット面で画面全体のボケがなくなり、像がはっきり見えればピントの合った状態です。ピントの合ったときは合焦マークが点灯し、合わないときは消灯します。

- メインスイッチが合焦信号音位置にセットされていれば、合焦時に信号音が鳴ります。



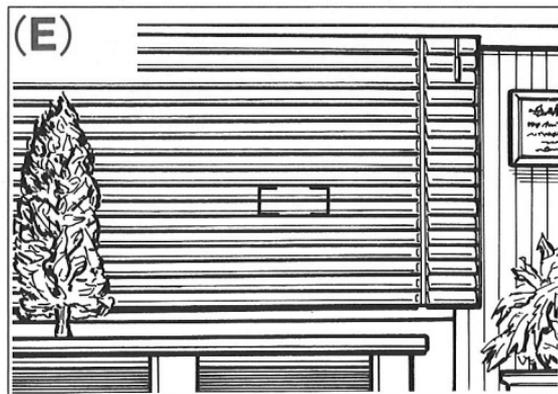
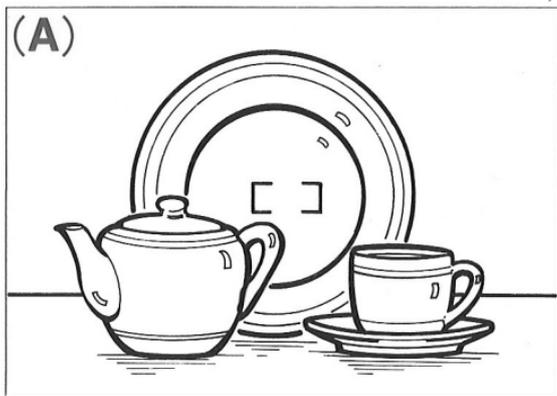
AFの苦手な被写体

このカメラのAFシステムは、ほとんどの被写体に対してピント合わせができる、非常に精度の高いものです。しかし次のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができないこと(合焦マークが点滅)があります。

- (A)コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体
- (B)非常に暗い所の被写体
- (C)極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
- (D)遠くと近くに共存する被写体
- (E)縦線のない被写体(F2.8より開放F値の暗いレンズ)

これらの被写体は、次のいずれかの方法でピントを合わせることができます。

- ①特に(A)のような場合は、被写体とほぼ同じ距離にあるものでAF測距をし、構図を決め直して撮影する。
- ②(E)の場合F2.8以上明るいレンズは(EF50mmF2.5、28-80mmF2.8-4を除く)、カメラのクロスセンサーが働いて測距しますが、暗いレンズの場合は、カメラを縦に構えてAF測距をし、構図を決め直して撮影する。
- ③USMレンズ以外のレンズはフォーカスモードスイッチをM(マニュアル)にして、手動でピント合わせをする。



撮 影

1 プログラムAE(P)

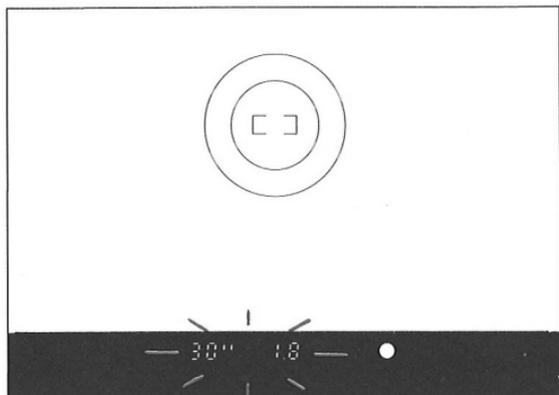
シャッター速度、絞りを撮影の都度セットする必要がありません。被写体の明るさに応じて、適正露出になるようにシャッター速度と絞りの組み合わせをカメラが選択します。

最も簡単な方法で、初心者の方でも使用できます。気軽に記念写真を撮るときなどに便利です。

1 撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回して、P(プログラムAE)を表示パネルにセットします。

2 AFフレームを被写体に合わせて、軽くシャッターボタンを押します。

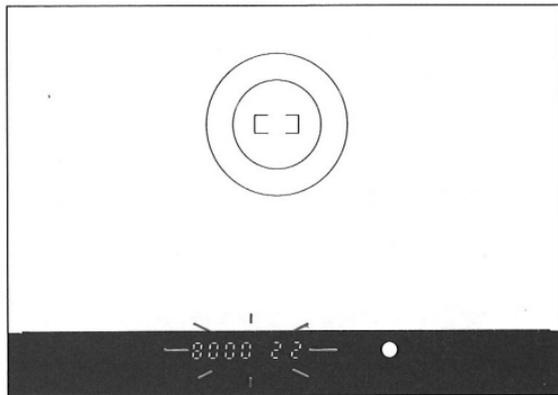
3 ファインダー表示を確認します。シャッタースピードと絞り値が点滅しなければ適正露出となりますので、そのまま撮影してください。



露出警告

露出アンダー

暗すぎるため30" と使用レンズの開放絞り値が点滅。ストロボ撮影に切り換えます。



露出オーバー

明るすぎるため1/8000秒とレンズの最小絞り値が点滅、NDフィルターを使用します。

プログラムAE時のプログラムシフト

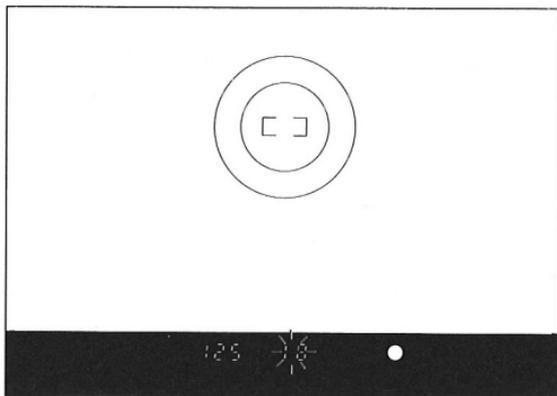
プログラム撮影中に特定のシャッター速度または絞り値が必要となったときは、メイン電子ダイヤルを回してください。任意の値でプログラム撮影をすることができます。(P78参照)

2. シャッター優先AE(TV)

表示パネルにシャッター速度をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出になるように、カメラが自動的に絞り値を選択します。

被写体の動きに合わせたシャッター速度をご自分で選べるため、スポーツなどの動体撮影に適します。

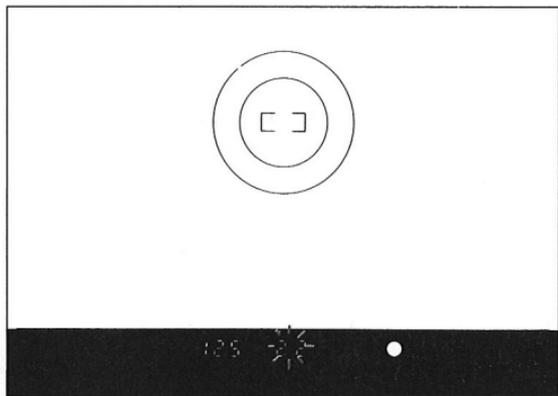
- (1) 撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回して、TV(シャッター優先AE)を表示パネルにセットします。
- (2) メイン電子ダイヤルを回して、シャッター速度を表示パネルにセットします。
- (3) AFフレームを被写体に合わせて、軽くシャッターボタンを押します。
- (4) ファインダー下部の露出表示が点滅しなければ適正露出です。
露出表示が点滅するときは、次の警告に従ってください。



露出警告

露出アンダー

使用レンズの開放絞り値が点滅するときは、露出アンダーです。その場合は点滅が止まるまで、メイン電子ダイヤルを回してシャッター速度を遅くしてください。



露出オーバー

使用レンズの最小絞り値が点滅するときは、露出オーバーです。その場合は点滅が止まるまで、メイン電子ダイヤルを回してシャッター速度を速くしてください。

CF カスタム機能を利用すれば、1/3段ごとのシャッター速度を1段ごとのセットにすることができます。(P.65~68参照)

3. 絞り優先AE(AV)

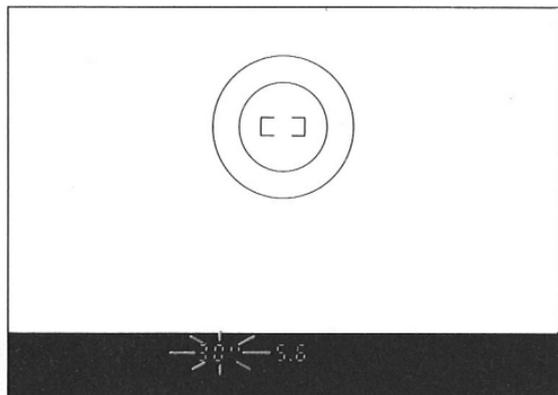
シャッター速度優先AEとは反対に、絞り値をセットすると被写体の明るさに応じて、適正露出になるようにカメラがシャッター速度を自動的に選択します。

絞り効果を生かしたポートレートや風景写真を撮るときに便利なモードです。

- (1) 撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回してAV(絞り優先AE)を表示パネルにセットします。
- (2) AFフレームを被写体に合わせて、軽くシャッターボタンを押します。
- (3) ファインダー下部の露出表示が点滅しなければ適正露出です。

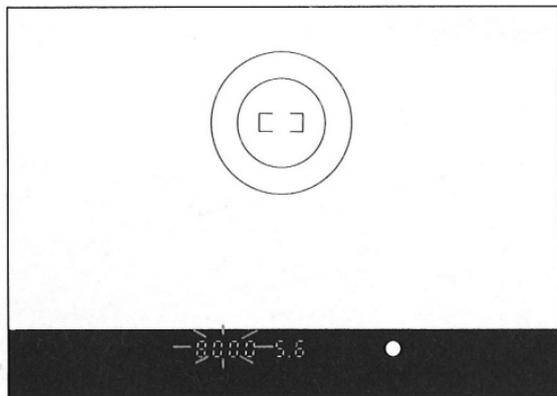
● 暗い場所ではシャッター速度が遅くなりますので、手ぶれに注意しながら撮影してください。

シャッター速度が点滅するときは、次の露出警告に従って撮影してください。



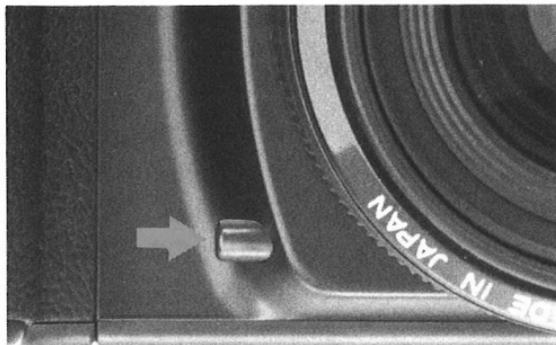
露出アンダー

シャッター速度の30秒が点滅するときは、露出アンダーです。その場合は点滅が止まるまで、メイン電子ダイヤルを回して絞りを開いてください。



露出オーバー

シャッター速度の1/8000秒が点滅するときは、露出オーバーです。その場合は点滅が止まるまで、メイン電子ダイヤルを回して絞りを閉じてください。



被写界深度確認スイッチ

絞り効果を確認したいときは、被写界深度確認スイッチを押してください。被写深度確認スイッチは撮影モードに関係なく押すことができます。(但し、深度優先AEは除く)

- 被写界深度確認スイッチを押すと、AEロック状態となります。

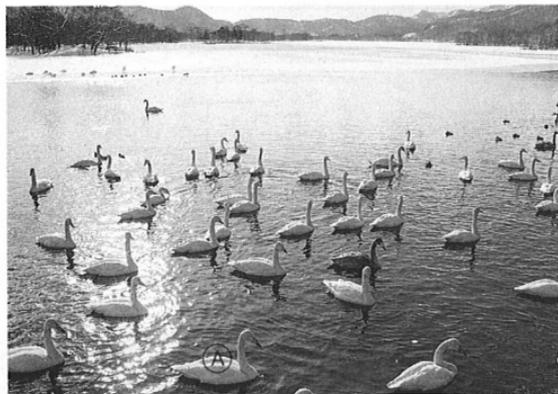
深度優先AE(dEP)

AFを利用して、前方から後方までを「确实」に被写界深度内に入れてシャープに写すためのAEモードです。

前方から後方まで深度内に入れるために必要な絞り値と、それに応じたシャッター速度をカメラが自動的に選択します。風景写真や多人数での記念写真、および背景に記念になるようなものを、鮮明に入れて写真を撮りたいときに適しています。

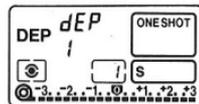
1 撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回してdEP(深度優先AE)を表示パネルにセットします。

●AFモードはONE SHOT, AIサーボのどちらでも構いません。



2 中央部のAFフレームを④の地点(前方)に合わせ、シャッターボタンを押します。(作例写真参照)合焦マークが出たら、シャッターボタンから指を離します。

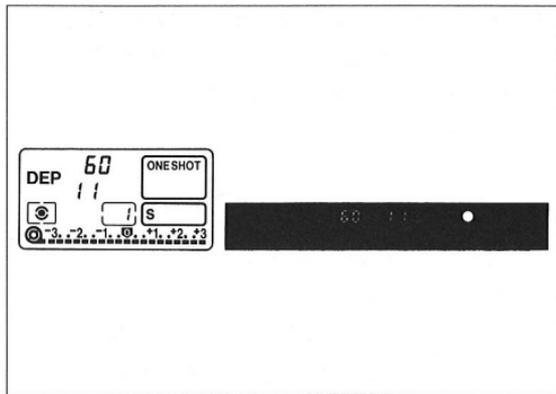
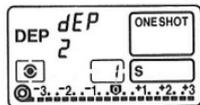
1点目(地点)にピンを合わせたときの表示





3 続いて⑥の地点(後方)で(2)と同様の操作をします。

2点目(⑥地点)にピントを合わせたときの表示



4 撮影したい構図に戻して、シャッターボタンを軽く押します。このとき、④地点から⑥地点、つまり前方から後方まで深度内に入れるのに必要な絞り値と、それに対応するシャッター速度が表示されます。

5 シャッターボタンをさらに深く押し撮影します。
 ・操作は⑥(後方)、④(前方)の順で行っても結果は同じです。

- 深度優先AEモードを操作途中で解除するときは、カメラ上部の3つのモード選択ボタン(AF, MODE, METERING)のいずれかを押してください。
- シャッター速度が遅くなったときは、手ぶれ防止のため三脚をご使用ください。
- どうしても被写界深度内に入らない場合は、使用レンズの最小絞り値が点滅して警告をします。しかし、写真は適正露出になります。
- シャッター速度と絞り値の両方の表示が点滅したときは不適正露出となります。明るい所ではNDフィルター(減光用)を使用し、暗い所では深度優先AEをあきらめて、フラッシュ撮影に切り換えてください。
- ズームレンズ使用時は、1点目のピント合わせをした後に焦点距離を変えないでください。必ず構図・画角を先に決めてください。

- 1点目、2点目とも同じ距離のものにピント合わせを行うと、被写深度は浅くなります。例えば人物でこれを行えば、人物の前景および背景をぼかしたポートレート撮影が可能ですが、その場合は望遠レンズのご使用をおすすめします。
- ピント合わせ範囲をセットできるレンズ(EF 300mmF2.8L等)を使用して、深度優先AE撮影をするときは、フォーカスプリセットスイッチは(至近~∞)位置にセットしてください。
- 深度優先AEモードでは、AFモードがONE SHOTでも露出はシャッターを切る瞬間に決まります。
- 深度優先AE時はストロボ併用撮影はできません。

AEロック撮影

画面内を部分的に測る、スポット測光、部分測光では、測光後構図変更が必要となることがあります。その際は必要に応じてAEロック撮影をしてください。

AEロックをすれば、構図を変えても露出は変わりません。

1 AFフレームを被写体に合わせ、軽くシャッターボタンを押します。

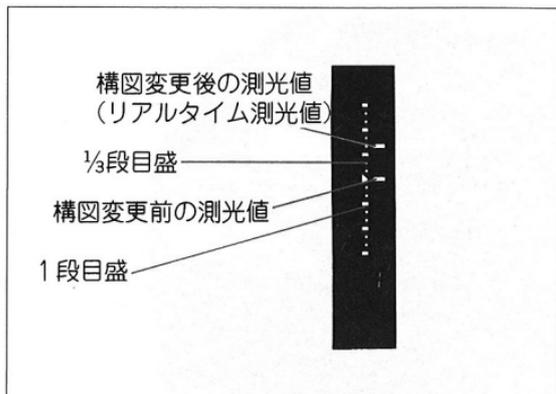


2 AEロックボタンを押します。タイマー表示となりますので、AEロックボタンから指を離しても構いません。

ファインダー内の * マークはAEロック状態を意味します。



● AEロック中に再びAEロックボタンを押すと、新たな測光値をAEロックします。



- 3** 構図を変えて撮影します。
構図を変えると新規の露出レベルマークが、ファインダー右に表示されます。これはリアルタイム測光値で、構図変更前との露出差を読み取るためのものです。

- AEロック状態の途中解除は、カメラ上部の3つのモード選択ボタン(AF、MODE、METERING)のいずれかを押ししてください。

自動AEロック

評価測光モードでAFモードがONE SHOTになっているときは、シャッターボタンを押すと、ピントと同時に露出もロックされます。またスポット測光時は連続撮影をすると自動AEロックとなります。自動AEロック時は*マークは点灯しません。

露出補正

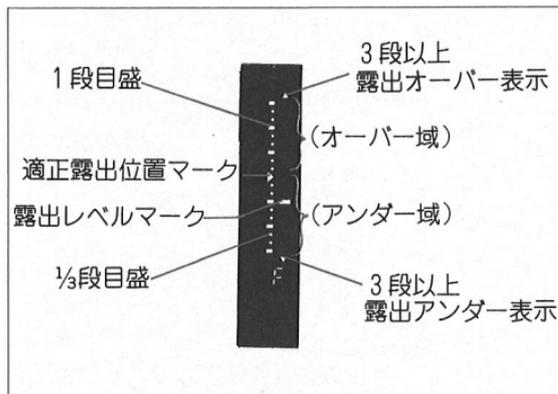
AE撮影時において、露出補正ができることが、このカメラの特長の1つです。しかもファインダーを覗いたままで、露出補正ができます。

露出補正はサブ電子ダイヤルで行う方法と、露出補正ボタンで行う方法とがあります。



サブ電子ダイヤルによる露出補正

- 1 サブ電子ダイヤルのスイッチをON状態(1)にセットします。
- 2 ファインダーを覗きながら、軽くシャッターボタンを押して測光状態にします。
 - 露出補正は測光中のみ可能です。
- 3 サブ電子ダイヤルを回して、測光レベルマークを任意の位置にセットします。このとき撮影モードによって下部の露出表示も変化します。



4 撮影します。撮影後は露出レベルマークを適正露出位置に戻してください。

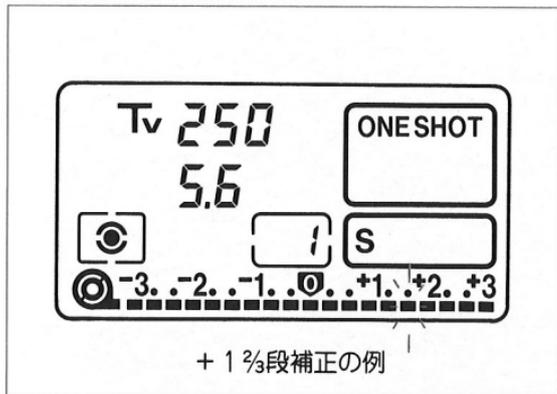
露出補正は1/3段ごとに、±3段の範囲で可能です。ファインダーの+/-表示は、露出補正状態を意味します。



露出補正ボタンによる露出補正

フィルム1本すべてに露出補正をしたいようなときは、露出補正ボタンを使用して、次のようにしてください。

1 露出補正ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回して補正量を表示パネルにセットします。



2 次に露出補正ボタンから指を離せば、セット補正量は固定されたままとなります。なおセット位置はドット(フィルムマーク)で点滅表示されず。

このときサブ電子ダイヤルのスイッチがON状態(Ⅰ)になっていると、不用意な回転で補正量が変わってしまいますので、必ずサブスイッチはOFF(○)位置にセットしておいてください。

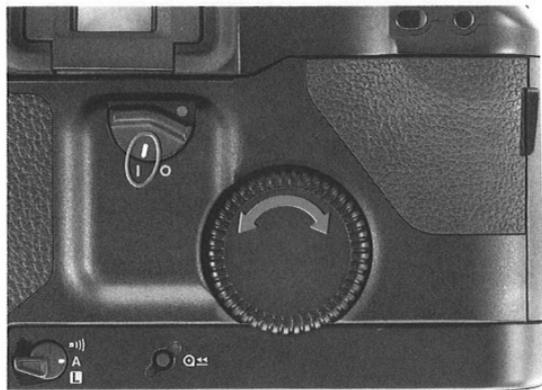
3 撮影終了後は必ず露出補正目盛を戻してください。

- 表示パネルの露出補正とファインダー内の露出補正は連動しています。

コマンドバックE1使用時の露出補正

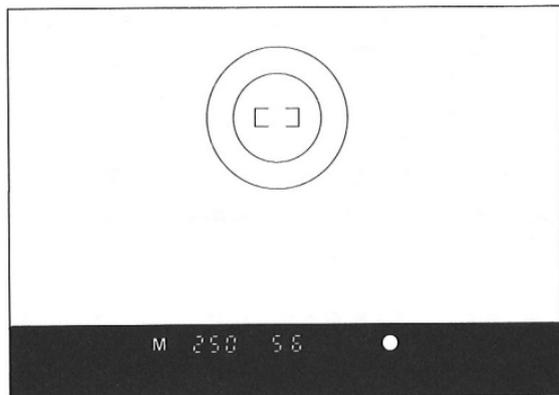
カメラの裏蓋をコマンドバックE1と交換したときは、サブ電子ダイヤルがありませんので、露出補正ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回してください。

マニュアル撮影モードの使い方として、単独露出計を使用して絞りとシャッター速度の双方を、撮影意図や目的に応じて、任意にセットする方法と、ファインダーに表示される露出レベルマークを参考にして、適正露出または意図的にアンダー、オーバーにして撮影する方法とがあります。



任意セット撮影

- 1 撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回してM(マニュアル)を表示パネルにセットします。
- 2 サブ電子ダイヤル用のサブスイッチをON状態(1)にセットします。



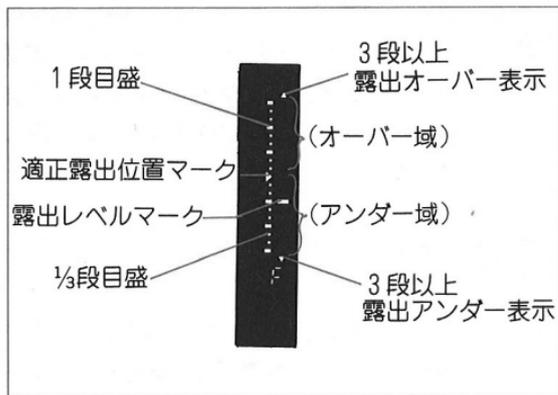
3 軽くシャッターボタンを押すと、露出値が表示されます。

Mはマニュアルを意味します。

4 単独露出計で測った、シャッター速度と絞り値を表示パネルにセットします。シャッター速度のセットは、メイン電子ダイヤルを回して、また、絞り値のセットはサブ電子ダイヤルを回して行います。

5 撮影します。

- コマンドバックE1と交換したときは、サブ電子ダイヤルがありませんので、絞り値をセットするときは、露出補正ボタンを押しながらメイン電子ダイヤルを回してください。



内蔵メーターを参考にした撮影

- 1 撮影モードをM(マニュアル)にセットします。
- 2 サブ電子ダイヤル用のサブスイッチをON状態(1)にセットします。

3 表示パネルを見ながらシャッター速度または絞り値をセットします。シャッター速度はメイン電子ダイヤルで、絞り値はサブ電子ダイヤルでセットします。

CF カスタム機能を使用すれば、メイン電子ダイヤルとサブ電子ダイヤルの機能を入れ換えることができます。(P.65~68)

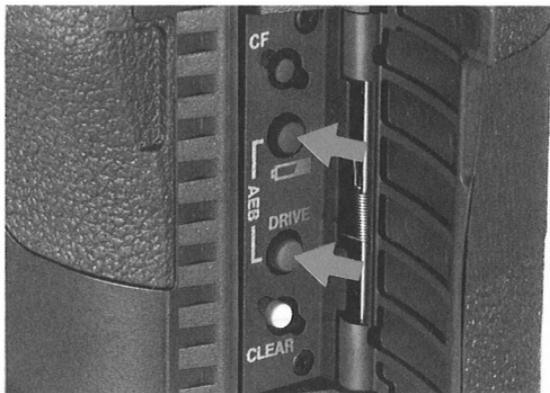
4 ファインダーを覗きながら軽くシャッターボタンを押して、測光状態にしてください。ファインダー右側に測光レベルマークが表れ、セットしたシャッター速度と絞り値が、適正露出からの程度ズれているかが確認できます。

5 シャッター速度または絞りを变更后、好みの露出調節量をセットして撮影します。

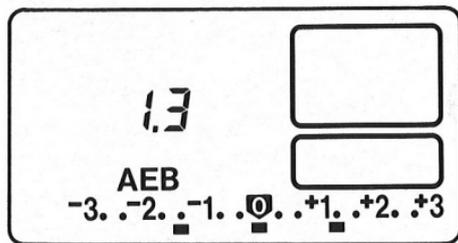
AEB撮影(オートブラケティング)

AEB撮影は微妙な露出を得るためのものです。通常はフィルムラチチュードの狭いリバーサルフィルムと組み合わせて使用します。

- AEB撮影は、セットを解除するまで、繰り返し行うことができます。



- 1 カメラの側面カバーを開けて、バッテリーチェックボタンと巻き上げモードセットボタンを押します。押すと6秒タイマーが働きますので、指を離して構いません。
表示パネルにAEBマークが現れます。



1 1/3段セットの例

メイン電子ダイヤルを回して、表示パネルに希望の補正量をセットします。補正量は1/3段ごと±3段の範囲です。

軽くシャッターボタンを押して指を離すと、補正量がファインダー内右側に表示されます。

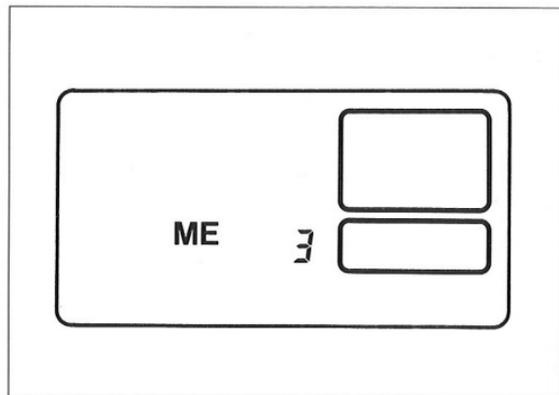
シャッターを切ると、セットしたフィルム給送モードに従って、アンダー、適正、オーバーの順で撮影が行われます。

- AEBを解除するときは、メインスイッチを回してください。なおレンズを取り外したときやフィルムを交換したときは、自動解除となります。
- AEB撮影時は、アンダー、適正、オーバーの3枚の撮影が終了するまで、ファインダー内に*マークが点滅します。点滅中はシャッター速度の変更などはできません。ご注意ください。*マークの点滅時は表示パネルのAEB表示も点滅します。
- 露出の補正量をアンダー側、オーバー側だけで行いたいときは、補正量をセットした後、サブ電子ダイヤルを回してください。目盛を一方に寄せることができます。サブ電子ダイヤルの代わりにメイン電子ダイヤルでも可能です。但しその際は露出補正ボタンを押しながら行います。
- ストロボ、バルブ時はAEB撮影はできません。

多重露出



多重露出機構を使用すれば、同一フィルム面上に画面を重ねて撮影することができます。多重撮影回数は1度の電子ダイヤル操作で、9回までセットすることができます。



- 1 撮影モード選択ボタンと測光モード切り換えボタンを押します。表示パネルに“ME”の文字が表示され、フィルム枚数表示(この場合は露出回数を表す)が1となります。
- 2 両方のボタンを押したままメイン電子ダイヤルを回して、多重露出回数(3回の多重露出なら3)をセットします。

- 撮影中は表示パネルのMEが点滅して、多重露出状態であることを知らせます。
- 多重露出を撮影前に解除するときは、多重露出回数を1にセットしてください。また撮影途中で解除するときは、多重露出回数表示をブランクにしてください。

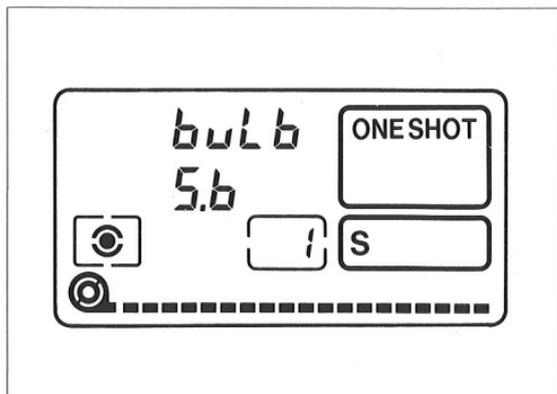
多重露出はフィルムの同一画面上に何度も露出を与えませんが、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正を併用してください。

補正の目安

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

この補正量はあくまでも一般的な目安です。実際は条件によって変わります。

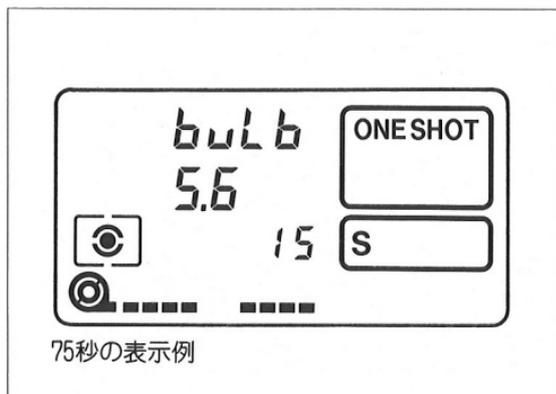
- バックが完全に黒く、かつ被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず1ショットずつに適正露出を与えるのが基本です。
- 多重露出はフィルムの最初と最後の数コマは巻きぐせがありますので、避けた方が無難です。



シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになりますので、夜景や天体撮影などで長時間露出が必要なときに使用します。

1 表示パネルにbulbを表示します。
撮影モード選択ボタンを押しながら、メイン電子ダイヤルを回してください。

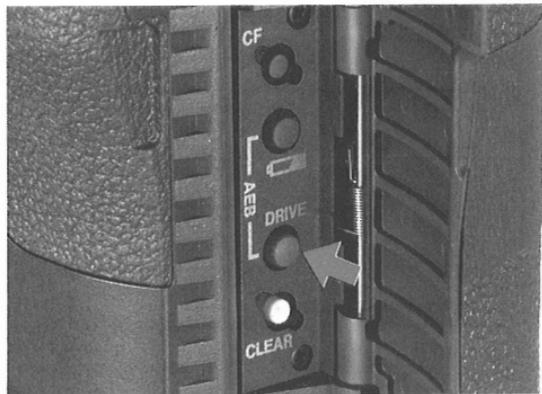
2 撮影モード選択ボタンから指を離し、メインまたはサブ電子ダイヤルを回し任意の絞り値をセットします。(サブスイッチはON状態にする)



75秒の表示例

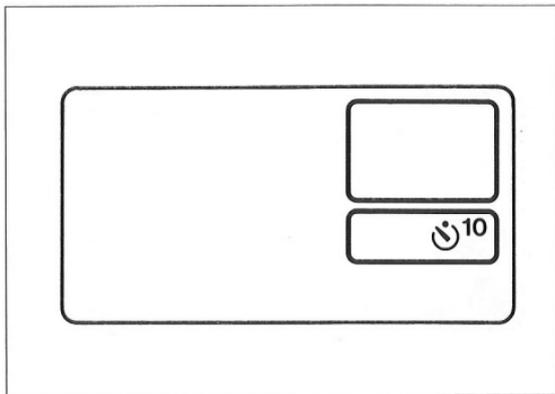
3 シャッターボタンを押します。シャッターボタンは押し続けてください。表示パネルの枚数表示部が時間表示となり、30秒ごとにバッテリーチェックバーマークが1本ずつ増え、120秒まで時間がわかります。なお、バルブ撮影は、ほとんど電池消耗のない省電設計です。

- リモートスイッチ60T3(別売)をカメラのリモコン端子に接続すれば、シャッターボタンを押し続ける必要はありません。



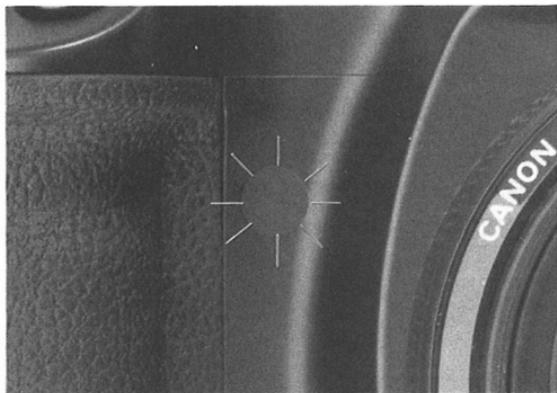
セルフタイマーには10秒と2秒の2種あります。セルフタイマー撮影時は三脚を併用してください。

- 1 カメラの側面カバーを開けて、フィルム巻き上げモードセットボタンを押します。



- 2 メイン電子ダイヤルを回して、表示パネルにセルフタイマーマークをセットします。10秒または2秒のいずれかをセットします。

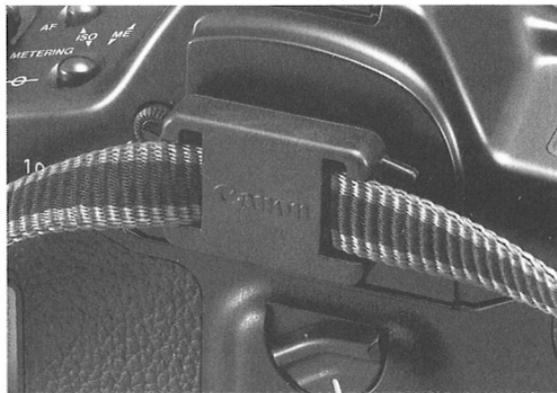
- 3 軽くシャッターボタンを押してピントを合わせます。



4 ピントと露出を確認して、シャッターボタンを深く押します。AFモードはどちらでも構いません。

セルフタイマー作動表示ランプが点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。

- セルフタイマー撮影を途中で止めたいときは、メインスイッチをOFF状態にしてください。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。



ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、逆入光防止のため、ストラップのアイピースカバーを、写真のように接眼部に取り付けてください。



カメラ上部のアクセサリシューに専用ストロボ、キャノンスピードライト430EZ、420EZ、300EZを取り付ければ、日中戸外と同様の簡単操作で暗中、日中シンクロ撮影ができます。同調シャッター速度も自動セットされます。なお詳しくはそれぞれの使用説明書に従ってください。

- スピードライト430EZについては、P.69参照
- カメラの露出表示を1段ごとのセットにして、ストロボ撮影をしたとき、カメラとストロボの絞り表示にズレが生じることがありますが、これはデータを1段表示にまらめるために生じるものであり、実際の露出制御は連続的に行われます。
- AI SERVOでストロボ撮影した場合、ストロボのAF補助光は投光されません。AF補助光が投光されるような暗い所では、AFモードはONE SHOTにしてください。

その他のキャノンスピードライト

以下のような手順で撮影してください。調光撮影となります。

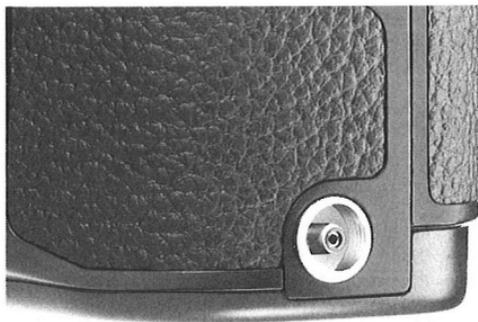
- 1) カメラの撮影モードを“M”にセットします。
- 2) 同調シャッター速度を30秒～1/250秒の範囲でセットします。1/250秒より速い同調速度をセットした場合は、自動的に1/250秒にセットされます。
- 3) ストロボに調光絞り値をセットします。
- 4) ストロボの調光絞り値と同じ絞り値をカメラにセットします。
 - 300TL使用時はストロボのモードセットボタンをMHi、MLo以外にセットして撮影してください。TTL調光が行われます。
 - 277T、299Tのプログラムモードは使用できません。F.NO.セットモードでお使いください。
 - 244Tは使用できません。

汎用ストロボ

- ① 汎用小型ストロボは1/250秒以下で同調可能。
 - ② スタジオ用大型ストロボは1/125秒以下で同調可能。
- 汎用ストロボをご使用の場合は、ストロボの発光時間との関係で正しく同調するかどうかを、あらかじめ確認してください。

このカメラにはキャノンの専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ(一般にホットシューに複数の接点を持つ)およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

赤外写真撮影



赤外マークは、白黒赤外フィルムを使用するときのマークです(赤印)。赤外フィルム撮影では通常の撮影とピント位置が異なりますので、次のページのようにしてください。

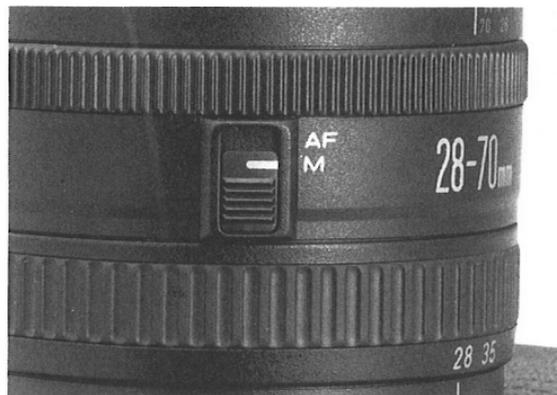
シンクロ接点

シンクロコード付きストロボを使用するときは、カメラ側面のシンクロ接点にシンクロコードを接続してください。シンクロ接点は抜け防止のためロックねじ付きとなっています。

シンクロ接点は×接点のみで、1/250以下のシャッター速度に同調します。

- 直結接点とシンクロ接点の同時使用可能

- 赤外写真撮影の詳しいことやカラー赤外フィルムについては、フィルムの使用説明書に従ってください。



1 AFでピントを合わせます。次にレンズのフォーカスモードスイッチをMに切り換えます。

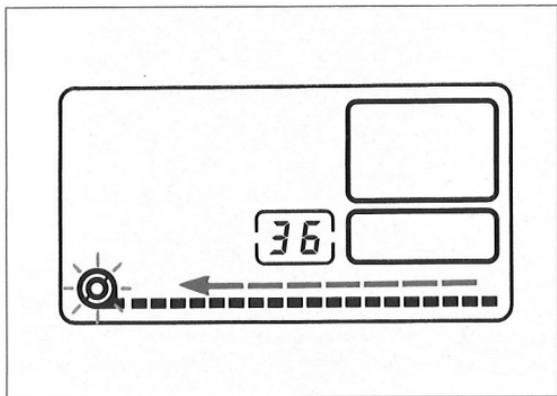


2 ピント合わせの結果が5mならば、レンズの距離目盛りの5を赤外マーク位置にずらしませす。(写真は28mm使用時)

3 これで撮影します。なお、白黒赤外フィルム撮影のときは、赤フィルターを併用します。

- レンズの赤外マークは800nmの波長を基準に目盛っていますが、一般の白黒赤外フィルムの波長は種類によって異なりますので(750~830nm)、撮影の際は赤外マークを中心にして、何枚か撮影することをおすすめします。

フィルムの巻き戻し



フィルムは終了と同時に巻き戻されます。

1 自動巻き戻しが始まると、フィルム給送マークが右から左へ動いて、巻き戻し中であることを表示します。また、表示パネルのフィルム枚数表示も逆算します。

2 巻き戻しが完了するとカメラは自動的に停止し、表示パネルのフィルム在否確認マークが点滅します。

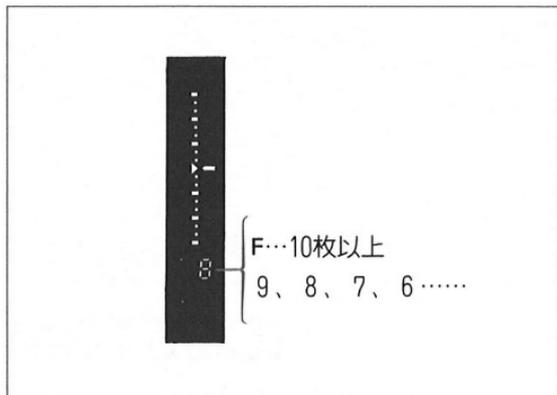
3 裏蓋を開けてフィルムを取り出します。

CF カスタム機能を利用すればオートリバースを解除して、手動スタートによる巻き戻しをすることができます。またフィルム先端をパトローネ外に残して巻き戻すこともできます。(P.65~68参照)



撮影途中のフィルム巻き戻し

撮影途中でフィルムを巻き戻す必要が生じたときは、フィルム途中巻き戻しボタンを押してください。



ファインダーでのフィルム残数確認

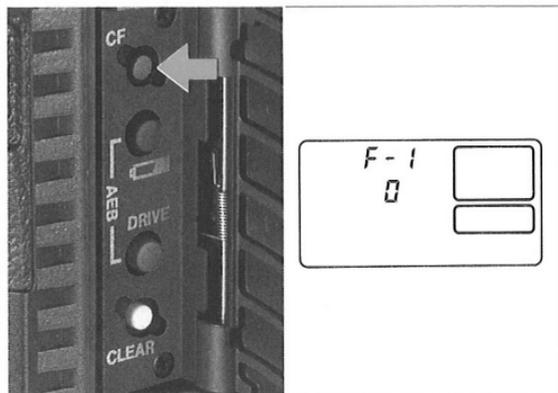
フィルム残数が9枚以下になったときは、ファインダーでその残数を確認できます。

ファインダー右下のF表示が9、8、7……と減算します。なおFは10枚以上を意味します。

カスタム機能 (CUSTOM FUNCTION)

このカメラはプロ、ハイアマを対象として開発されたカメラです。従ってカメラマンの意志を十分に反映できる機能を内蔵しています。次のカスタム機能(CF)もその1つです。カスタム機能を利用すれば、カメラをご自分の最も使い易い形にすることができます。

カスタム機能の選択とセット



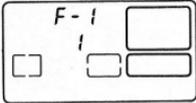
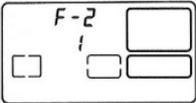
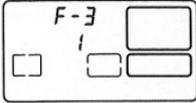
- 1 カメラの側面カバーを開けて、カスタム機能セットボタン(CF)を押します。押すと表示パネルに機能番号が表示されます。
- 2 カスタム機能番号はF-1~8まであり、番号の選択はメイン電子ダイヤルを回して行います。(P66参照)
- 3 機能の選択をします。
側面カバーのカスタム機能セットボタンを押すごとに1、0が交互に表示されます。1は変更セット、0は変更せずを意味します。セット完了後は軽くシャッターボタンを押して、表示パネルを通常表示に戻します。

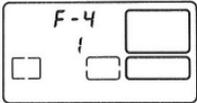
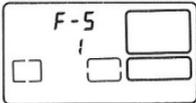
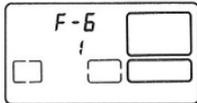
カスタム機能の解除

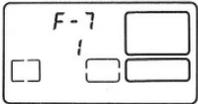
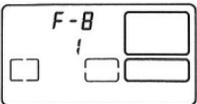


セットしたカスタム機能を解除するときは、再びカスタム機能番号を表示した後、0をセットしてください。なおセットしたカスタム機能を一括して解除するときは、次のようにしてください。

- 1 カメラ側面のカバーを開け、CFボタンを押してカスタム機能表示にします。
- 2 次にクリアボタンを押します。これでカスタム機能はすべて解除となります。

F-1	F-2	F-3
		
<p>撮影終了後のフィルムの自動巻き戻し機能を解除する。</p>	<p>フィルム巻き戻しの際、フィルムの先端部をパトローネ内に巻き込まない。</p>	<p>フィルムの自動感度セット機能を解除する。</p>
<p>自動巻き戻し解除時の巻き戻しは、途中巻き戻しボタンで行います。劇場、音楽会、野生動物の撮影など、静かな所で不意の巻き戻し音を避けるときなどにセットします。</p>	<p>ご自分で現像されるときなどにご利用ください。 この機能をセットしたときは、裏蓋を開けてシャッターを切るとシャッター速度は、1/8000秒となります。</p>	<p>増感、減感またテスト撮影から求めたフィルムの実効感度をセットするときなどに使用します。</p>

F-4	F-5	F-6
		
<p>AEロックボタンをAF作動ボタンに変更する。</p>	<p>マニュアル撮影時の絞り値セットをメイン電子ダイヤルで行う(シャッター速度のセットはサブ電子ダイヤルとなる)</p>	<p>シャッター速度と絞りのセットを1段表示に変更する。</p>
<p>ピント合わせ後に構図を変えたとき、ピントと露出が同時に決定されるとまづいことがあります。セットすることによって測光とAFを別々に決めることができます。このモードを選択したときは、シャッターボタンでAEロックを行います。</p>	<p>シャッター速度をストロボ同調速度に固定、絞りを頻繁に変える(表現効果を変えるため)ストロボ併用スタジオ撮影に威力を発揮します。なおセット後のシャッター速度のセットは、サブ電子ダイヤルで行います。スタジオ用ストロボ併用時はAEB撮影可能。</p>	<p>1/3段の標準仕様を1段にセットしたい方は変更してください。</p>

F-7	F-8
	
<p>USMレンズの手動ピント合せを不可とする</p>	<p>評価測光を中央部重点平均測光にする</p>
<p>USM(超音波モーター)レンズ使用の際、オートフォーカスでピントを合わせた後に、手動でピントを好みのところに合わせることができますが、その必要のないときにセットしてください。</p>	<p>ニューF-1と同じような中央部重点平均測光となります。</p>



主要アクセサリ

キャノンスピードライト430EZは、クリップオンタイプの大量ズームストロボです。

A-TTL調光を採用しているため、撮影モードに合わせた暗さ、日中ストロボ撮影が簡単にできます。カメラと関係なくストロボの調光レベルを変えて、自然な暗さの写真表現ができる自動露出レベル調光撮影。1秒間に10回まで連続発光ができるマルチ発光撮影、流動感を表現する後幕シンクロ撮影、さらにバウンス撮影、スローシンクロ撮影など高度な撮影ができます。内蔵電源だけでなく、3種類のバッテリーに対応する外部電源など、キャノンスピードライト430EZは、本格派のためのストロボです。

キヤノンパワードライブブースターE1



カメラ本体の給送速度をアップさせるためのブースターです。取り付けるとカメラ単体の2モーターから3モーターシステムとなり、最高連続撮影速度が秒間(約)、2.5コマから5.5コマとなります。

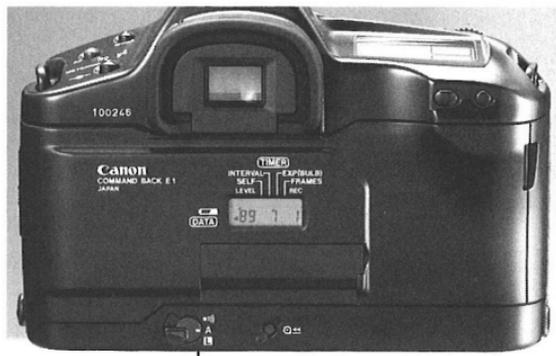
パワードライブブースターは、本体と一体化されたデザインとなっているため、取り付けても操作性は抜群のものとなっています。メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤルの切り換えをはじめ、カメラ単体と全く異和感のない操作となっています。

撮影コマ速度の切り換えはC^H(約5.5枚/秒)、C_L(約3枚/秒)、S(1枚撮り)となっています。また縦位置を考慮したリリースボタン、AEロックボタンを設けています。

電源は、単3電池8本を使用します。

別売のニッカドパックE1も用意されています。

コマンドバックE1



コマンドバックE1は多くの特長を備えた交換用裏蓋です。データを写し込むだけでなく、名称の“コマンド”（命令）に示されるように、カメラを制御する機能を持つデータバックです。次のような機能をクォーツ制御で行います。

〈データ機能〉

4種類のデータ自動写し込み

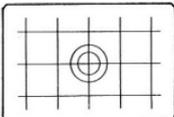
- ①2029年までのオートデート(年・月・日)写し込み
(大小の月、うるう年の自動修正)
- ②24時間表示で日・時・分の写し込み
- ③6桁の数値、A～Fまでのアルファベット文字の写し込み
- ④フィルムカウンター(4桁)の写し込み

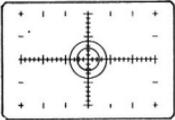
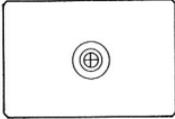
交換用フォーカシングスクリーン(専用)

交換用フォーカシングスクリーン

撮影用途の違いによる便宜を図るため、標準装備の他に6種類の交換用フォーカシングスクリーンが用意されています。

カメラにはCタイプが標準装備されています。

名称	用途・特徴
A. 標準マイク口、 	一般、全レンズに使用可能。F5.6より暗いレンズおよび接写ではマイクロプリズムにカゲリを生ずる。
B. ニュースプリット、 	一般、全レンズに使用可能。
C. AFフレーム付き 全面レーザーマット、 	一般、全レンズに使用可能。
D. 方眼レーザーマット、 	一般、全レンズに使用可能。目盛線があるため建築写真の構図決定に、便利、また複写にも有効。

<p>H. 目盛線入りレーザーマット、</p> 	<p>全レンズに使用可能。目盛線が中央および周辺にあるため、撮影倍率や構図決定に便利、接写、拡大撮影に有効。</p>
<p>I. 十字線入りレーザーマット、</p> 	<p>中央十字線部空中像と十字線でピント合わせ可能。眼を左右に振ったときに、素通し部の像が十字線に対して動かなければ合焦、天体写真、顕微鏡写真などに有効。</p>
<p>L. クロススプリット、</p> 	<p>縦横両方向の線を使用してピント合わせ可能。F5.6より暗いレンズおよび接写はスプリット部にカゲリを生ずる。</p>

フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられていますので、絶対に手で触れないでください。交換の際はフォーカシングスクリーン付属の専用チェンジャーをお使いください。なお、フォーカシングスクリーンの交換はカメラマウント部から行いますが、詳しくはフォーカシングスクリーンの使用説明書をご覧ください。

視度補正レンズ

カメラ本体では $-3 \sim +1$ dpt(ジオプター)の視度調節が可能です。交換用視度補正レンズを併用すると、視度調節可能範囲がそれぞれ次のようになります。

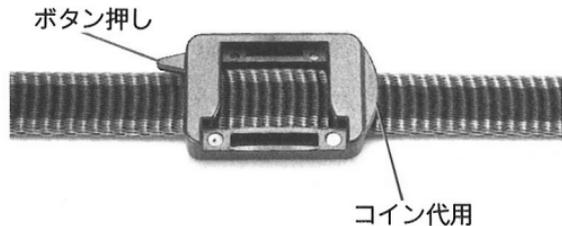
視度補正レンズ	視度調節範囲
+3	+1 \sim +5dpt
+2	0 \sim +4dpt
+1.5	-0.5 \sim +3.5dpt
+1	-1 \sim +3dpt
+0.5	-1.5 \sim +2.5dpt
0	-2 \sim +2dpt
-0.5	-2.5 \sim +1.5dpt
-2	-4 \sim 0dpt
-3	-5 \sim -1dpt
-4	-6 \sim -2dpt

ストラップの扱い



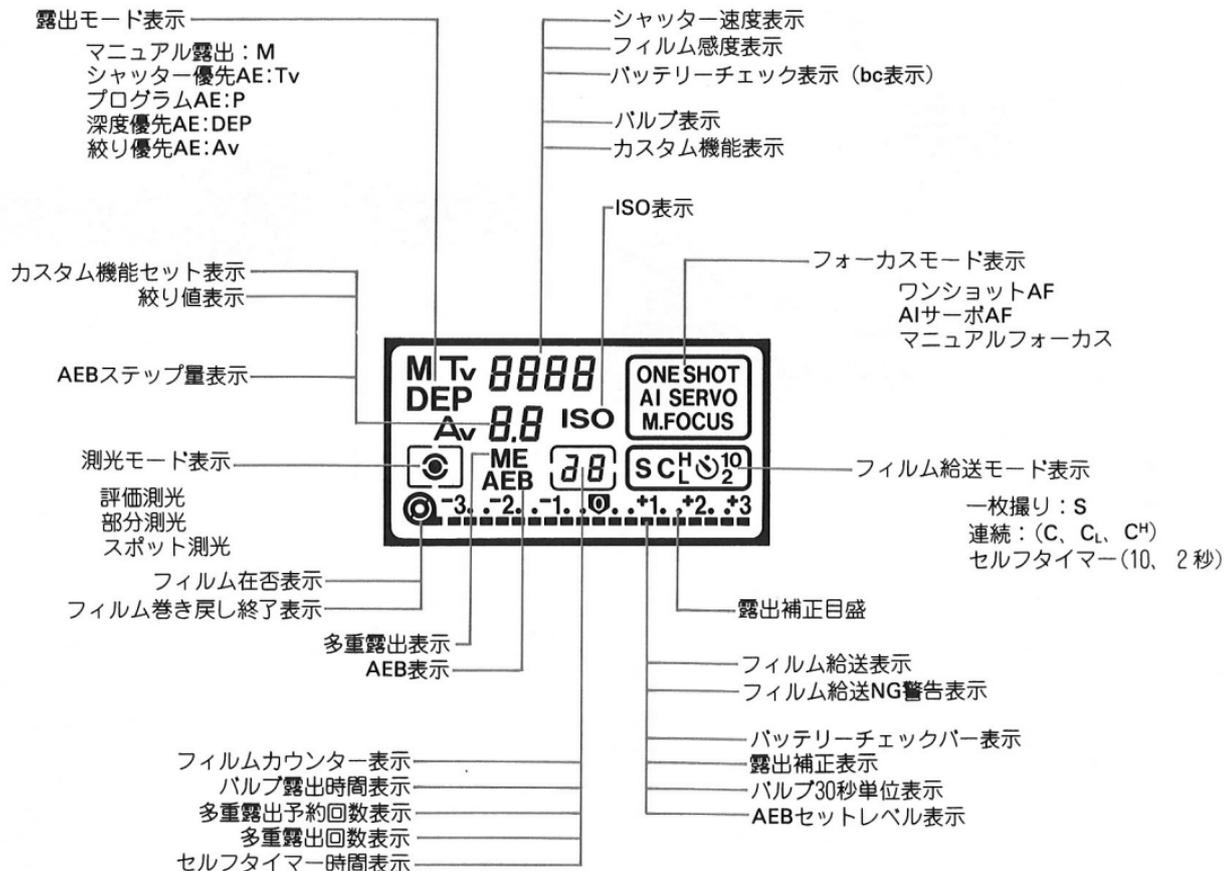
1 ストラップ(吊りひも)の先端は、止め金の内側になるように通してください。

接眼部から目を離して撮影するときは、ストラップについているアイピースカバーを接眼部に取り付けて、逆入光を防止してください。

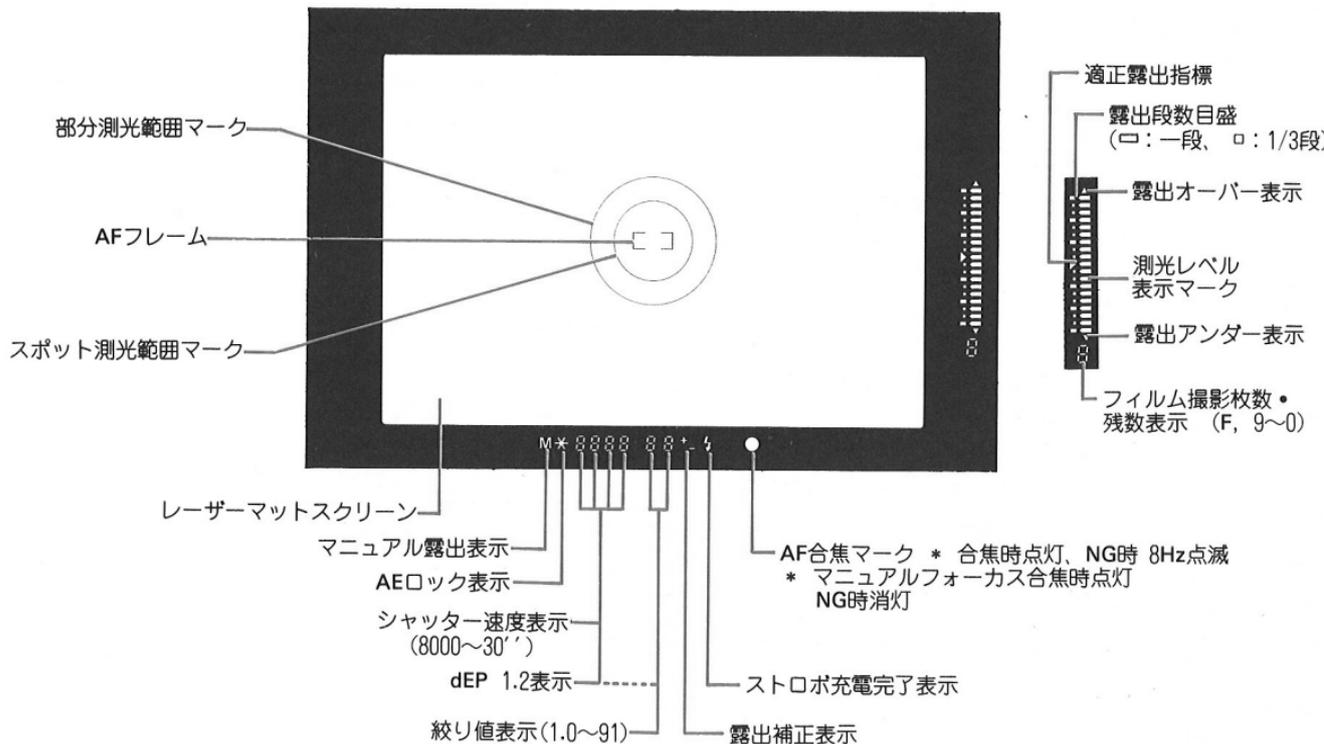


アイピースカバーはボタン押しやコイン代わりに使えます。

表示パネル一覧



ファインダー情報



電池寿命(フィルム給送本数)

温度	撮影本数
常温(+20°C)	75(50)
低温(-20°C)	12(8)
休止条件	フィルム1本撮影・巻き戻し完了ごとに電池チェックおよび休止。 休止時間：常温20秒間、低温3分間

- シャッター優先AEモード
- 新品のリチウム電池パックを使用。
- EF50mm F1.8・24枚撮りフィルム使用なお()内は36枚撮り

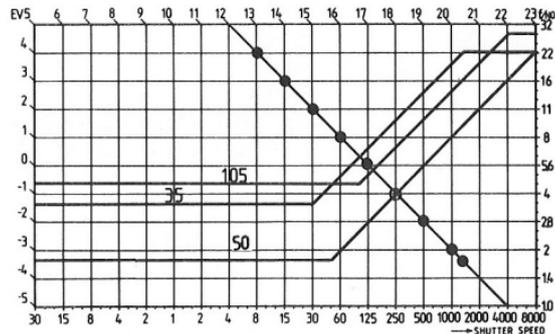
- AFでピントを合わせた後、6秒間のタイマー機能が切れる直前に撮影。
- フィルム給送本数は使用法および使用レンズ等により変わります。
- 撮影本数はフィルムなしで空撮りしたときの回数も含まれます。
- 上記は当社試験条件による一例です。

インテリジェントプログラムAE特性図

EF 50mm F1.8 EF 35-105mm F3.5-4.5使用時

- 印はシフトを行った場合のポイントを示す。
(EF50mm F1.8の例)

1/3段セット時もプログラムシフトは、1段ごととなります。なおシフト限界に突き当たった場合、往復操作で露出表示が異なります。これは突き当たった点から、一段ごとに表示をするためです。



シャッター速度と絞り値表示

ファインダー内のシャッター速度と絞り表示は、次のようになります。カスタム機能をセットしたときは、1段ごと(色文字)の表示となります。

8000	1.0	13	2 5
6400	1.1	10	2 9
5000	1.2	8	3 2
4000	1.4	6	3 6
3200	1.6	5	4 0
2500	1.8	4	4 5
2000	2.0	0''3	5 1
1600	2.2	0''4	5 7
1250	2.5	0''5	6 4
1000	2.8	0''6	7 2
800	3.2	0''8	8 1
640	3.5	1''	9 1
500	4.0	1''3	
400	4.5	1''6	
320	5.0	2''	
250	5.6	2''5	
200	6.3	3''2	
160	7.1	4''	
125	8.0	5''	
100	9.0	6''	
80	10	8''	
60	11	10''	
50	13	13''	
40	14	15''	
30	16	20''	
25	18	25''	
20	20	30''	
15	22		

手入れ

カメラは精密機械ですので、適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。常に手入れをするように心がけてください。

手入れ用具として次のようなものを求めください。ブローブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロスなど

レンズ、ファインダー・接眼部

これらはいずれもキズがつきやすいので、ブローブラシで吹き払うだけにしてください。

万一指紋などがついたときは、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。なお拭くときは拭きムラ、拭き残りのないようにしてください。

ミラー、フォーカシングスクリーン

レンズ同様、ブローブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンサービスステーションにお持ちください。

フィルム室内

フィルムカスが付きやすいので、常にゴミをブローブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

シャッター幕は非常に薄い幕でできています。ブローで吹く際は、あまり強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。またゴミを吹き飛ばす際には、絶対にボンベタイプのブローを使用しないでください。止むを得ず使用するときは、シャッター幕から20cm以上離してください。

シャッター幕を指で突いたり、触れることは絶対にしないでください。またフィルム出し入れの際、フィルム端がシャッター幕に触れないよう、ご注意ください。

レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーで拭いてください。

カメラの電気接点

カメラの各電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じると作動不良となることがありますので、ご注意ください。またゴミ、汚れが付いていないかも時々点検してください。万一汚れているときは取り除いてください。

保管

カメラケースを外し、電池を抜き取って、湿気 ほかりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおく、カビや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) カメラ本体には強化プラスチックが使用されていますので、極端に温度が高くなると変形する恐れがありますので、車のトランク、リヤウインドー、ストーブの前などに置かないでください。

- 2) 実験室などのような薬品を扱う場所は電気接点などのサビ・腐食の原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。

長期間使用しなかった後や海外旅行など、大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキャノンサービスステーション、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

寒い戸外から暖かい場所にカメラを持ち込むと、カメラ表面に水滴が付着(結露)しますので、そのようなときはカメラをビニール袋に入れた後に持ち込んでください。徐々に環境温度に慣らした後に取り出すと水滴も付きません。なお10℃の温度差を30分位かけてから、取り出してください。

暖かい所から寒い戸外にカメラを出すと、カメラ内部に結露することがありますので、同様にしてください。

1. 表示パネルについて

カメラの表示パネルには液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は最寄りのキャノンサービスステーションで液晶の交換をご用命ください。(有料)

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

2. bc表示の点滅について

電池電圧が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上でbcが点滅することがあります。以下の操作を行ってください。

1) 電池チェックボタンで電池電圧を確認します。

もし電池電圧が低下していれば電池を交換してください。

2) 電池電圧に問題がなければ、電池を一度取り出し、再度入れてください。

3) 一度シャッターを切ります。

以上の操作を行ってbcの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかし、この操作を繰り返してもbcの点滅が消えないときは、カメラの故障です。最寄りのキャノンサービスステーションにお持ちください。

3. リチウム電池について(その1)

カメラは電池(リチウム電池パック、2CR5、6V 1個)を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池をチェックしてください。

①電池を交換したとき

②長期間カメラを使用しなかったとき

③シャッターが切れなくなったとき

④寒冷地で撮影するとき

⑤その他、大切な写真を撮るときなど

●電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐食の原因となることがあります。

●長期間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。

- 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり、火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れ保管しながら交互に使用することをおすすめします。

4. リチウム電池について(その2)

表示パネルの電池チェックマークが点滅または無表示となっても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。但し、電池電圧が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。また、巻き上げ/巻き戻し途中で、カメラが停止してしまったときは、表示パネル上でフィルム給送マーク全体が点滅して警告をします。(巻き戻しは新品電池に交換した後、途中巻き戻しボタンを押せば継続作動します)。

5. フィルムのX線による感光防止について

フィルムはカメラに入っている、空港でのX線検査による感光は防止されません。フィルムの入ったカメラであることを検査官に伝え、X線の照射を避けてください。

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、10年間を目安に保有してしています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

主要性能

■ 形式

型式：モータードライブ内蔵35mmフォーカルプレーンシャッターAF/AE一眼レフカメラ
画面サイズ：24mm×36mm
使用レンズ：キャノンEFレンズ群
レンズマウント：キャノンEFマウント(完全電子制御方式)

■ ファインダー

型式：ペンタプリズム使用、アイレベル式(アイポイント：20mm)
視野率：上下左右共ほぼ100%
倍率：0.72倍(-1dpt、50mmレンズ使用・∞)
視度調節：視度補正機構内蔵：補正範囲-3～+1 dpt
フォーカシングスクリーン：交換可能(7種)、Cタイプ標準装備
ミラー：クイックリターン式ハーフミラー(ミラー切れ：840mm f/5.6まで無し)
ファインダー情報：
(1) 視野内中央部
オートフォーカスフレーム、スポット測光範囲マーク、部分測光範囲マーク

(2) 視野外下部

シャッタースピード、絞り数値、*：AEロック(AEB撮影途中：2 Hz点滅)、M：マニュアル、 $\frac{1}{2}$ ：ストロボ充電完了、+/-：露出補正(430EZ測光露出補正時も点灯)、●：AF・合焦(AF測距不能時：8 Hz点滅警告)

(3) 視野外右部

露出レベル目盛：1/3段毎±3段、露出レベル表示ドットバー(①AEモード・露出補正量、②AEロック・リアルタイム測光偏差値、③マニュアル露出レベル、④AEB露出ズレ量、⑤ストロボ撮影時の背景露出)フィルム残量深度確認：専用ボタン押し操作で可能

■ 露出制御

測光方式：6分割・高感度SPC使用・TTL開放測光
評価測光、中央部部分測光(φ8mm：画面の約5.8%)、中央部ファインスポット測光(φ5mm：画面の約2.3%)…
1コマ目はリアルタイム測光、2コマ目以降は1コマ目と同じAEロック撮影

露出制御方式：①シャッター優先AE(セットピッチ：1/3段)、②絞り優先AE(セットピッチ：1/3段)、③深度優先AE、④インテリジェントプログラムAE(プログラムソフト可能)、⑤A-TTLプログラムストロボAE、⑥TTLプログラムストロボAE、⑦マニュアル、⑧バルブ

測光範囲：常温・50/1.4使用換算・ISO100にて、(1)評価測光・部分測光 EV 0~20、(2)ファインスポット測光EV +2~20

使用フィルム感度：ISO 6~6400(ISO 25~5000は、DXコードによる自動セット)

露出補正：(1)AEB:1/3段ステップ ±3段、アンダー・標準・オーバーの3枚、給送モードに従って繰り返し撮影可能、セルフタイマー併用時は、給送モードに係わらず3枚連続撮影

(2) マニュアル補正：1/3段毎 ±3段

サブ電子ダイヤルあるいは露出補正ボタンとメイン電子ダイヤル操作による

AEBとマニュアル補正の組み合わせ使用可能

AEロック：(1)オートAEロック

ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック

(2) マニュアルAEロック

AEロックボタン押しにより全ての測光方式にて可能
多重露出：9回まで予約可能、予約回数撮影後自動解除(途中解除/再セット可能)

■オートフォーカス

AF制御方式：TTL-CT-SIR方式(TTLクロスタイプ二次結像位相差検出方式)

AFセンサーに増幅器一体型のクロスタイプBASIS

(Base-Store Image Sensor)使用、測距完了時、フォーカス表示点灯と電子ブザー音で告知(測距不能時：フォーカス表示 8 Hz点滅警告、電子ブザー音のON/OFF選択可能)

フォーカスモード：①ワンショットAFモード

測距完了にて停止(AFロック)、測距完了後リリース可能

②動体予測・AIサーボAFモード

実際の露光開始まで、被写体の移動に追従作動、動体予測機能装備
測距完了にかかわらず随時リリース可能(連写は予測駆動優先制御)

フォーカス表示なし、測距不能時のみ 8 Hz点滅表示

③マニュアル

フォーカスモードスイッチをMにし、手動フォーカスリングを回すことにより可能

AF測距輝度範囲：EV -1~18

AF補助光：専用ストロボ使用時、必要に応じてストロボから自動投光

■シャッター

型式：全速電子制御・縦走りメタルフォーカルブレンシングシャッター

シャッタースピード：1/8000秒~30秒(1/3段毎) X同調速度=1/250秒

リリース方式：ソフトタッチ電磁リリース

セルフタイマー：電子制御式 時限10秒/2秒の2種、選択可

表示ランプ点滅(作動開始：2 Hz、残り2秒：8 Hz)、表示パネル秒時減算にて作動表示、メインスイッチ

「L」位置セットにて作動解除

■フィルム給送関係

フィルム装填：自動、フィルムセット後裏蓋を開けると、1枚目まで自動空送りし停止(約3秒)

巻き上げ方式：内蔵モータによる自動巻き上げ

(1)EOS-1単体：連続撮影(C)/一枚撮影(S)の2モード

(2)パワードライブプースターE1装着時：高速連続撮影

(C^H)・低速連続撮影(C_L)・一枚撮影(S)の3モード

巻き上げ速度：(1)連続撮影 [コマ/秒]

給送モード	ワンショット/マニュアル	AIサーボAF
C ^H	約5.5	約4.5
C _L	約3.0	約2.5
C	約2.5	約2.0

(2)一枚撮影：ボディ単体時は連続撮影C/パワードライブプースターE1装着時はC^Hモード同等速度で一枚巻き上げ自動停止

給送本数：24枚撮りフィルム/(36枚撮りフィルム)・本数

形態		EOS-1単体	パワードライブプースターE1装着時	
使用電源		2CR5×1	LR6×8	Ni-Cd/パックE1
温度	常温(20℃)	75/(50)	100/(65)	65/(45)
	低温(-20℃)	12/(8)	6/(4)	45/(30)

フィルム巻き戻し：フィルム終了と同時に内蔵モータにより自動巻き戻し(オートリバース/24枚撮りフィルム：約8秒、36枚撮りフィルム：約12秒)途中巻き戻し可能

各部名称

アクセサリシュー

AFモード切り換えボタン

測光モード切り換えボタン

撮影モード切り換えボタン

フィルム確認窓

視度調節ノブ

ファインダー接眼部

メインスイッチ

サブスイッチ(サブ電子ダイヤル用)

途中巻き戻しボタン

サブ電子ダイヤル

AEロックボタン

露出補正ボタン

表示パネル

表示パネル照明ボタン

メイン電子ダイヤル

側面カバー

リモコン端子



アイカップ



カスタム機能セットボタン

バッテリーチェックボタン

巻き上げモードセットボタン

クリアボタン

■本体関係

フラッシュ接点：(1)アクセサリシュー部：X・直結接点

(2)ボディ右側面下部：JIS B型ソケット(ロックねじ付)

* (1)(2)同時使用、同時発光可能

フラッシュオート：EOS用EZシリーズストロボ使用、ボディ本体プログラムAEモードセットにて

(1)A-TTL自動調光

充電によりシャッタースピードの同調秒時(1/250~1/60秒)に自動セット、ボディ本体のA-TTLプログラムおよびストロボによる近赤外線プリ発光により、撮影距離、被写体条件(輝度)に応じた最適調光絞り値を自動セット。フィルム面反射測光によるTTL自動調光制御。自動日中シンクロ可。

(2)TTL自動調光

充電によりシャッタースピードを同調秒時(1/250~1/60秒)に自動セット、ボディ本体のTTLプログラムにより調光絞り値を自動セット。フィルム面反射測光によるTTL自動調光制御。自動日中シンクロ可。

* (1)(2)共、ボディ本体シャッター優先AEモードセットにて1/250秒以下の任意(1/3段毎)の同調シャッタースピード、絞り優先AEモードセットにて任意の絞り値選択セット可能。

カスタム機能：8種内蔵、下記項目の選択セット可

①オートリバースしない。

②自動巻き戻し完了時、リーダー部を残す。

③DXコードによるISO感度自動セットは行わない。

④AEロックボタンをAF作動ボタンに機能変更する。

⑤マニュアル絞りセットをメイン電子ダイヤル単独操作で行う。

⑥シャッター、絞りのセットを1段毎にする。

⑦USMレンズ使用・ワンショットAF作動後の電子リングマニュアルピントを不可とする。

⑧評価測光を中央部重点平均測光にする。

液晶表示パネル：撮影、測光、AF、フィルム巻き上げの各モード、シャッター速度、絞り値、撮影枚数、バッテリーチェックなどを表示、照明機能内蔵

リモート

コントロール：三端子リモートコントロール接点標準装備

電源：(1)リチウム電池 2 CR5 1個 6V グリップ部に収納

(2)パワードライブブースターE1装着時は、本体のリチウム電池を取り外し、パワードライブブースターE1用電源(LR6×8 12V)(Ni-Cd/パックE1)よりボディ本体へも供給

(3)メモリーバックアップ用、CR1220 1個 寿命約5年
電池チェック：電池チェックボタン押し、液晶表示パネルに3段階表示

裏蓋：コマンドバックE1と交換可能

大きさ：161(W)×106.6(H)×71.8(D)mm(ボディ厚：55.8mm)

重量：850 gr(リチウム電池なし、電池込みの場合は+40gr)

EOSは、完全電子化マウントにより、専用のキヤノンEFレンズとの間でピント・露出調節のための情報交換を行っています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常機能を発揮しないことがありますのでご注意ください。また、他社製品との組み合わせ使用に起因する事故、故障等につきましては保証いたしかねます。